

# 平成24年度決算 燕市の財務書類4表

貸借対照表

行政コスト計算書

純資産変動計算書

資金収支計算書

平成25年12月

燕 市

## 目次

はじめに	1
<b>第1章 普通会計財務書類4表について</b>	<b>2</b>
<b>I 作成に関する基本的事項</b>	<b>2</b>
<b>II 貸借対照表</b>	<b>4</b>
1 貸借対照表の説明	4
2 燕市の普通会計貸借対照表	5
3 普通会計貸借対照表による燕市の財政状況	6
<b>III 行政コスト計算書</b>	<b>16</b>
1 行政コスト計算書の説明	16
2 燕市の普通会計行政コスト計算書	17
3 普通会計行政コスト計算書による燕市の財政状況	18
<b>IV 純資産変動計算書</b>	<b>19</b>
1 純資産変動計算書の説明	19
2 燕市の普通会計純資産変動計算書	19
3 普通会計純資産変動計算書による燕市の財政状況	19
<b>V 資金収支計算書</b>	<b>21</b>
1 資金収支計算書の説明	21
2 燕市の普通会計資金収支計算書	22
3 普通会計資金収支計算書による燕市の財政状況	23
<b>VI 普通会計財務書類4表の関係</b>	<b>25</b>
1 燕市の普通会計財務書類4表の関係図	25
<b>VII 普通会計財務書類4表による分析</b>	<b>27</b>
1 将来世代に残る資産はどれくらいあるのか？（資産形成度）	27
2 将来世代と現世代との負担の分担は適切か？（世代間公平性）	29
3 持続可能な財政状況か？（健全性）	31
4 行政サービスは効率的に提供されているか？（効率性）	32
5 資産形成を行う余裕はどのくらいあるのか？（弾力性）	33
6 普通会計財務書類4表による分析結果の総括	34
<b>第2章 連結財務書類4表について</b>	<b>35</b>
<b>I 作成に関する基本的事項</b>	<b>35</b>
<b>II 連結貸借対照表</b>	<b>37</b>
1 燕市の連結貸借対照表	37
2 連結貸借対照表による燕市の財政状況	38
<b>III 連結行政コスト計算書</b>	<b>42</b>
1 燕市の連結行政コスト計算書	42
2 連結行政コスト計算書による燕市の財政状況	43
<b>IV 連結純資産変動計算書</b>	<b>44</b>
1 燕市の連結純資産変動計算書	44
2 連結純資産変動計算書による燕市の財政状況	45
<b>V 連結資金収支計算書</b>	<b>46</b>
1 燕市の連結資金収支計算書	46
2 連結資金収支計算書による燕市の財政状況	47
<b>VI 連結財務書類4表の関係</b>	<b>48</b>
1 燕市の連結財務書類4表の関係図	48

# はじめに

## 1 公会計の整備について

現在、地方公共団体の会計は、一年間の現金収支に着目した「現金主義・単式簿記」が採用されています。地方自治体の活動は住民福祉の増進が目的ですが、その主な財源は税によって賄われているため、資金が間違いなく管理されているか、議会で議決された予算の定めに従って適正に支出されているか、歳出に必要な財源が歳入として確保されているかなどを常時確認する必要があり、この目的に適しているのが、現行の公会計制度です。

しかし、この制度はその年度の収支など現金の動きが分かりやすい反面、資産・負債などのストック情報や、行政サービスを提供するために発生したコスト情報が不足しているという弱点があります。地方公共団体においては、従来から歳入歳出決算書や決算統計等に基づいて経常収支比率等の指標を算定し財務分析を行ってきましたが、これらの指標は収支情報を中心としたフローの情報に基づくもので、資産や債務といったストックの情報が含まれていない点で限界がありました。この弱点を補うために近年「発生主義・複式簿記」による企業会計的な手法を用いた新しい公会計制度を導入する動きが広まってきています。

そして、地方分権の進展に伴い、これまで以上に自由でかつ責任ある地域経営が地方公共団体に求められている中で、資産・債務管理などの内部管理強化と外部への分かりやすい財務情報の開示が不可欠であるとし、国は地方に、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書及び資金収支計算書の財務書類4表を連結ベースで作成し公表するよう新公会計の整備の推進を要請しています。

## 2 燕市の財務書類4表の公表について

本市においては、財政の透明性の確保や説明責任の一層の履行を果たすとともに、新しい公会計の整備の過程で必要となる資産・債務の適切な管理や財務書類4表の分析結果の行政経営への活用を目的として、連結ベースの財務書類4表を平成20年度決算から作成しています。

本書は、平成24年度決算に基づく普通会計ベース及び連結ベースの財務書類4表の数値を用いて本市の財務状況を分析し、その結果を公表するものです。分析内容は、前回に引き続き財務書類そのものの数値を用いた資産・負債の状況やコストの状況の分析、そして普通会計財務書類4表を用いた各種指標の経年変動による比較や県内各市平均との比較による財務状況の分析となっています。この分析により今まで分からなかった資産・負債などのストック情報や人件費や物件費などのコスト情報における本市の特徴や課題を把握することができました。

今後は、普通会計ベースだけでなく連結ベースでの経年比較、類似団体比較による分析を行うことにより、関係団体を含めた総合的な財務状況の特徴や課題を明らかにし、市民に対する財政状況の適切な情報開示のみならず、効率的・効果的な行政経営への活用ができるよう内容の充実を図っていきたいと考えています。

# 第1章 普通会計財務書類4表について

## I 作成に関する基本的事項

### 1 作成モデル及び作成財務書類

平成19年10月に総務省が示した「新地方公会計制度研究会報告書」の「総務省方式改訂モデル」に基づき、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書及び資金収支計算書の財務書類4表を作成しています。

### 2 作成の対象範囲

普通会計を対象としています。普通会計とは、地方財政状況調査（以下「決算統計」といいます。）で用いられる会計区分で、本市の場合は次の会計で構成されています。

- ① 一般会計
- ② 土地取得特別会計
- ③ 温泉保養センター特別会計

### 3 作成基準日

平成24年度末（平成25年3月31日）を基準日として作成しています。なお、平成24年度分の出納整理期間（平成25年4月1日から平成25年5月31日まで）における出納については、基準日までに終了したものとして取り扱っています。

### 4 作成基礎データ

昭和44年度から平成24年度までの決算統計の数値と平成24年度の歳入歳出決算書等の数値を基礎として作成しています。

### 5 有形固定資産の評価基準

取得価額を基礎として算定した価額としています。その価額の算定は、昭和44年度から平成24年度までの決算統計における普通建設事業費（他団体等に対する補助金・負担金及び事業費支弁人件費を控除）の累計額から、土地を除く有形固定資産の減価償却累計額を控除する方法で行っています。

※事業費支弁人件費の控除は平成19年度から

### 6 減価償却

行政目的別・種別の耐用年数（図1参照）により、残存価額ゼロの定額法（毎年度一定の額を取得原価から差し引く方法）で減価償却を行っています。

図1 耐用年数表

区 分	耐用年数	区 分	耐用年数	区 分	耐用年数
① 生活インフラ・国土保全		住 宅	40	砂 防	50
道 路	48	空 港	25	漁 港	50
橋りょう	60	その他	25	農業農村整備	20
河 川	49	② 教 育	50	海岸保全	30
砂 防	50	③ 福 祉		その他	25
海岸保全	30	保育所	30	商 工	25
港 湾	49	その他	25	労 働	25
都市計画		④ 環境衛生	25	⑥ 消 防	
街 路	48	⑤ 産業振興		庁 舎	50
都市下水路	20	農林水産業		その他	10
区画整理	40	造 林	25	⑦ 総 務	
公 園	40	林 道	48	庁舎等	50
その他	25	治 山	30	その他	25

## 7 売却可能資産の範囲と売却可能価額の算定方法

普通財産のうち売却することが既に決まっている、または、近い将来売却が予定されていると判断される資産を売却可能資産としています。また、売却可能価額は主に平成25年3月31日現在の固定資産評価額を基礎として算出しています。

## 8 投資及び出資金の評価方法

投資及び出資金は、原則として取得価額を基礎として評価しています。

## 9 債権の回収不能見込額の計上方法

長期延滞債権及び未収金に係る回収不能見込額は、過去の不納欠損実績率により算出し計上しています。

## 10 引当金の計上方法

### (1) 退職手当引当金

退職手当引当金は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に定める「将来負担比率」の算出方法に準じて、当年度末に特別職を含む全職員（当年度末退職者を除く）が自己都合により退職した場合の退職手当要支給額を基礎として算定された額を計上しています。

### (2) 賞与引当金

賞与引当金は、平成25年度当初予算に基づき、6月に支払うことが予定されている期末手当及び勤勉手当のうち、当年度負担相当額を計上しています。

## II 貸借対照表

### 1 貸借対照表の説明

#### (1) 貸借対照表とは

貸借対照表とは、会計年度末（基準日）時点で、地方公共団体がどのような資産を保有しているのか（資産保有状況）と、その資産がどのような財源でまかなわれているのか（財源調達状況）を、総括的に対照表示した財務書類です。貸借対照表により、基準日時点における地方公共団体の財政状況（資産・負債・純資産といったストック項目の残高）が明らかにされます。貸借対照表は、資産合計額と負債・純資産額合計額が一致し、左右がバランスしている表であることからバランスシートとも呼ばれます。

#### (2) 貸借対照表の構成要素

貸借対照表は、図のように「資産」、「負債」及び「純資産」から構成されています。

借 方	資 産	貸 方	負 債
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(ア) 行政サービスに使う資産 (例：インフラ資産、庁舎・学校等の施設)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(イ) 基金、預金等の現金資産</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(ウ) 売れる資産、回収する資産 (例：売却可能資産、貸付金、未納税金)</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">将来世代の負担 (例：地方債、将来支払うべき退職金)</div>	
		<b>純 資 産</b>	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">過去及び現世代の負担 (例：国県補助金、これまでに収納した税金)</div>	

#### ① 資産

「資産」には、(ア) 地方公共団体が行政サービスを提供するために使用する資産、(イ) 現在保有する基金・預金等の現金資産、(ウ) 将来、地方公共団体に資金流入をもたらす資産（売れる資産、回収する資産）の3つがあります。例えば、(ア) については、インフラ資産や公共施設などの有形固定資産が含まれ、(ウ) については、市税の未収入金や売却可能資産などが含まれます。

#### ② 負債

「負債」とは、将来、債権者に対する支払や返済により地方公共団体から資金流出をもたらすものです。負債に計上される主な項目として地方債があります。地方債は、将来償還していく義務があるため負債へ計上されます。また、地方債は、公共資産など住民サービスを提供するために保有する財産の財源として見た場合、住民サービスを受ける世代間の公平性の観点から発行されると言われています。このため、負債は「将来世代が負担する部分」という見方ができます。

#### ③ 純資産

「純資産」とは、資産と負債の差額です。住民サービスを提供するために保有する財産の財源として見た場合、負債が「将来世代が負担する部分」という見方ができるのに対して、純資産は「現在までの世代が負担した部分」という見方ができます。

## 2 燕市の普通会計貸借対照表

### 貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
<b>[資産の部]</b>		<b>[負債の部]</b>	
<b>1 公共資産</b>		<b>1 固定負債</b>	
(1) 有形固定資産		(1) 地方債	39,337,299
①生活インフラ・国土保全	66,733,632	(2) 長期未払金	
②教育	40,113,660	①物件の購入等	0
③福祉	5,959,341	②債務保証又は損失補償	62,336
④環境衛生	1,522,605	③その他	0
⑤産業振興	6,719,025	長期未払金計	62,336
⑥消防	1,343,843	(3) 退職手当引当金	6,230,175
⑦総務	10,389,763	(4) 損失補償等引当金	184,809
有形固定資産計	132,781,869	固定負債合計	45,814,619
(2) 売却可能資産	479,554		
公共資産合計	133,261,423		
<b>2 投資等</b>		<b>2 流動負債</b>	
(1) 投資及び出資金		(1) 翌年度償還予定地方債	2,900,556
①投資及び出資金	245,607	(2) 短期借入金（翌年度繰上充用金）	0
②投資損失引当金	0	(3) 未払金	10,033
投資及び出資金計	245,607	(4) 翌年度支払予定退職手当	0
(2) 貸付金	438,301	(5) 賞与引当金	235,435
(3) 基金等		流動負債合計	3,146,024
①退職手当目的基金	0		
②その他特定目的基金	1,538,372		
③土地開発基金	651,401		
④その他定額運用基金	2,000		
⑤退職手当組合積立金	0		
基金等計	2,191,773		
(4) 長期延滞債権	536,144		
(5) 回収不能見込額	△ 124,538		
投資等合計	3,287,287		
<b>3 流動資産</b>		<b>負債合計</b>	
(1) 現金預金			48,960,643
①財政調整基金	3,613,827		
②減価基金	308,320		
③歳計現金	1,149,611		
現金預金計	5,071,758		
(2) 未収金			
①地方税	140,675		
②その他	10,061		
③回収不能見込額	△ 34,300		
未収金計	116,436		
流動資産合計	5,188,194		
<b>資産合計</b>		<b>純資産の部]</b>	
	141,736,904	1 公共資産等整備国県補助金等	19,787,364
		2 公共資産等整備一般財源等	89,723,438
		3 その他一般財源等	△ 16,851,547
		4 資産評価差額	117,006
		<b>純資産合計</b>	92,776,261
		<b>負債・純資産合計</b>	
		141,736,904	

#### 注記

※1 他団体及び民間への支出金により形成された資産

①生活インフラ・国土保全	1,716,171 千円
②教育	214,952 千円
③福祉	1,268,539 千円
④環境衛生	109,043 千円
⑤産業振興	2,953,022 千円
⑥消防	2,539 千円
⑦総務	88,888 千円
計	6,353,154 千円

上の支出金に充当された財源

①国県補助金等	1,118,763 千円
②地方債	1,553,729 千円
③一般財源等	3,680,662 千円
計	6,353,154 千円
①物件の購入等	86,735 千円
②債務保証又は損失補償	379,575 千円
(うち共同発行地方債に係るもの)	0 千円
③その他	1,892,024 千円

※2 債務負担行為に関する情報

①物件の購入等	86,735 千円
②債務保証又は損失補償	379,575 千円
(うち共同発行地方債に係るもの)	0 千円
③その他	1,892,024 千円

※3 地方債残高（翌年度償還予定額を含む）のうち31,284,582千円については、償還時に地方交付税の算定の基礎に含まれることが見込まれているものです。

※4 普通会計の将来負担に関する情報

普通会計の将来負担額	69,109,546 千円
[内訳] 普通会計地方債残高	42,237,855 千円
債務負担行為支出予定額	1,136,573 千円
公営事業地方債負担見込額	18,001,500 千円
一部事務組合等地方債負担見込額	1,318,634 千円
退職手当負担見込額	6,230,175 千円
第三セクター等債務負担見込額	184,809 千円
連結実質赤字額	0 千円
一部事務組合等実質赤字負担額	0 千円
基金等将来負担軽減資産	47,724,081 千円
[内訳] 地方債償還額等充当基金残高	5,600,904 千円
地方債償還額等充当歳入見込額	116,689 千円
地方債償還額等充当交付税見込額	42,006,488 千円
(差引)普通会計が将来負担すべき実質的な負債	21,385,465 千円

※5 有形固定資産のうち、土地は47,237,902千円です。また、有形固定資産の減価償却累計額は70,857,203千円です。

### 3 普通会計貸借対照表による燕市の財政状況

#### (1) 資産の部

##### ① 公共資産

「公共資産」は、「有形固定資産」と「売却可能資産」から構成されており、資産の大部分を占めています。本市でも資産総額が1,417億3,690万円であるのに対して、公共資産合計は1,332億6,142万円であり、資産総額の94.0%に達しています。

「有形固定資産」とは、長期間にわたって住民サービスを提供するために使用されるもので、土地、建物、機械装置などが該当します。ここに計上されている金額は、昭和44年度から平成24年度に取得した資産の取得額の累計額から減価償却の累計額を差し引いた後の金額で、本市では1,327億8,187万円となっています。

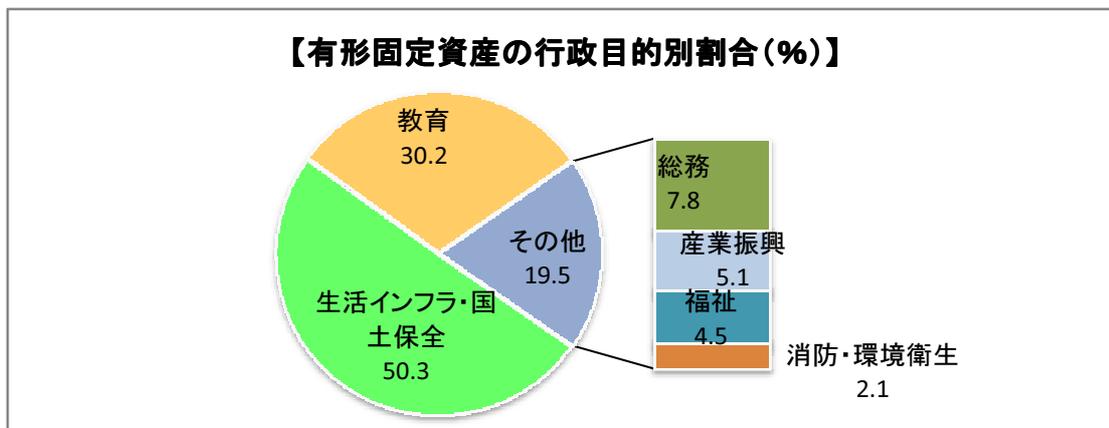
また、「有形固定資産」は、行政目的別に区分されています。本市の行政目的別有形固定資産計上額を見ると、金額の大きい順に、生活インフラ・国土保全が667億3,363万円（構成割合50.3%）、教育が401億1,366万円（同30.2%）となっています。道路などのインフラ整備、学校や文化・体育施設など教育文化施設の整備に力を入れてきたことがわかります。

なお、「有形固定資産」の明細については、付属資料1のとおりです。

【有形固定資産の行政目的別割合】

(単位:千円、%)

区 分	金 額	構成割合
生活インフラ・国土保全	66,733,632	50.3
教育	40,113,660	30.2
総務	10,389,763	7.8
産業振興	6,719,025	5.1
福祉	5,959,341	4.5
消防・環境衛生	2,866,448	2.1
合 計	132,781,869	100.0



一方、「売却可能資産」とは、公共資産のうち未利用資産など、売却が予定されている資産や行政サービスに利用されていない資産を表しています。本市では「売却可能資産」として、公売している土地等4億7,955万円を計上しています。「売却可能資産」の明細については、付属資料2のとおりです。

## 付属資料1

## 有形固定資産明細表(平成24年度)

(単位:千円)

	土地 A	償却資産				貸借対照表計上額 A+D
		取得価額 B	減価償却累計額 C	帳簿価格 D=B-C	うち当年度償却額	
生活インフラ・国土保全	28,260,423	66,064,091	27,590,882	1,360,820	38,473,209	66,733,632
道路	15,793,735	50,601,214	20,049,016	1,037,999	30,552,198	46,345,933
橋りょう	477,142	1,717,733	889,815	28,627	827,918	1,305,060
河川	65,755	95,145	25,717	1,851	69,428	135,183
都市計画	11,417,592	9,955,965	4,488,670	198,428	5,467,295	16,884,887
街路	7,667,102	5,058,718	2,025,771	105,345	3,032,947	10,700,049
都市下水路	240,427	1,108,900	1,091,020	464	17,880	258,307
区画整理	32,514	44,475	27,687	1,100	16,788	49,302
公園	3,476,269	3,741,365	1,341,685	91,519	2,399,680	5,875,949
その他	1,280	2,507	2,507	0	0	1,280
住宅	503,884	3,533,715	2,024,710	87,744	1,509,005	2,012,889
その他	2,315	160,319	112,954	6,171	47,365	49,680
教育	7,941,681	51,046,679	18,874,700	965,693	32,171,979	40,113,660
小学校	1,629,403	20,146,540	6,454,376	366,744	13,692,164	15,321,567
中学校	749,931	11,157,745	3,960,195	206,528	7,197,550	7,947,481
幼稚園	72,323	423,916	215,917	8,445	207,999	280,322
社会教育	746,004	6,163,175	2,743,523	122,604	3,419,652	4,165,656
その他	4,744,020	13,155,303	5,500,689	261,372	7,654,614	12,398,634
福祉	2,181,977	9,474,683	5,697,319	262,959	3,777,364	5,959,341
保育所	1,036,599	4,378,303	2,742,922	87,242	1,635,381	2,671,980
その他	1,145,378	5,096,380	2,954,397	175,717	2,141,983	3,287,361
環境衛生	566,500	1,960,857	1,004,752	66,811	956,105	1,522,605
清掃	20,442	707,827	133,362	24,917	574,465	594,907
ごみ処理	19,418	145,433	65,013	4,572	80,420	99,838
し尿処理	980	556,376	66,358	20,140	490,018	490,998
その他	44	6,018	1,991	205	4,027	4,071
保健衛生	7,896	63,096	26,960	1,959	36,136	44,032
その他	538,162	1,189,934	844,430	39,935	345,504	883,666
産業振興	3,142,881	15,202,904	11,626,760	444,043	3,576,144	6,719,025
労働	154,853	458,392	360,419	9,390	97,973	252,826
農林水産業	1,345,180	11,730,227	8,705,056	384,958	3,025,171	4,370,351
造林	67	4,053	2,916	162	1,137	1,204
林道	63,390	690,750	240,898	14,391	449,852	513,242
治山	5,400	14,775	14,775	0	0	5,400
農業農村整備	692,583	8,757,680	6,427,017	324,125	2,330,663	3,023,246
その他	583,740	2,262,969	2,019,450	46,280	243,519	827,259
商工	1,642,848	3,014,285	2,561,285	49,695	453,000	2,095,848
観光	259,229	875,129	684,032	33,739	191,097	450,326
その他	1,383,619	2,139,156	1,877,253	15,956	261,903	1,645,522
消防(警察)	490,956	2,406,529	1,553,642	82,095	852,887	1,343,843
庁舎	21,033	804,521	317,024	14,888	487,497	508,530
その他	469,923	1,602,008	1,236,618	67,207	365,390	835,313
総務	4,653,484	10,245,427	4,509,148	128,674	5,736,279	10,389,763
庁舎等	1,126,562	5,992,220	1,034,111	46,658	4,958,109	6,084,671
その他	3,526,922	4,253,207	3,475,037	82,016	778,170	4,305,092
合計	47,237,902	156,401,170	70,857,203	3,311,095	85,543,967	132,781,869

## 付属資料2

## 売却可能資産明細表(平成24年度)

## 1 土地

## (1) 普通建設事業費に係るもの

(単位:千円、㎡)

所在地	地目	面積	取得年度	取得価額	回収可能価額	差引評価差額
南7丁目6346番6外	宅地	68	昭和51年度	1,940	1,967	27
佐渡字寄合割5003番1	宅地	375	平成4年度	22,384	12,547	△ 9,837
新潟市間瀬字田ノ浦6884番1外	宅地	8,818	昭和54年度	69,639	7,810	△ 61,829
白山町3丁目2715番3外	宅地	965	昭和62年度	22,863	28,132	5,269
燕字東郷4413番3外	宅地	87	平成9年度	3,497	2,970	△ 527
秋葉町4丁目3093番1	宅地	108	平成11年度	6,874	4,428	△ 2,446
小高字新田824番6	宅地	250	平成19年度	14,959	5,399	△ 9,560
水道町4丁目631番4	宅地	235	平成19年度	10,272	7,800	△ 2,472
水道町4丁目603番5	宅地	299	平成24年度	9,937	9,937	0
水道町4丁目379番3	宅地	298	平成24年度	9,885	9,885	0
燕字下野付3989番2外	宅地	383	平成19年度	20,728	12,671	△ 8,057
勘新字浦田8番4	宅地	23	平成19年度	311	334	23
水道町4丁目57番3外	宅地	16	平成19年度	813	661	△ 152
燕字西郷3204番1外	宅地	198	平成19年度	9,539	7,649	△ 1,890
地藏堂字西裏2685番1	宅地	36	昭和58年度	1,904	1,185	△ 719
国上字居下4198番2外	雑種地	2,300	昭和51年度	16,560	21,685	5,125
中島字竹ノ下4429番3	雑種地	79	平成元年度	822	745	△ 77
砂子塚字屋敷廻1005番2	宅地	91	平成6年度	15	1,502	1,487
あけぼの1丁目1番31外	宅地	1,844	平成5年度	38,724	27,662	△ 11,062
砂子塚字下川原4948番1外	雑種地	15,501	平成3年度	5,022	15,168	10,146
砂子塚字浦田4957番外	雑種地	9,665	平成6年度	8,073	7,483	△ 590
井土巻4丁目97番2外	宅地	754	平成3年度	70,353	29,740	△ 40,613
吉田水道町36番3	雑種地	1,054	平成6年度	18,907	24,558	5,651
合 計				364,021	241,918	△ 122,103

## (2) 寄附、無償譲渡に係るもの

(単位:千円、㎡)

所在地	地目	面積	取得年度	取得価額	回収可能価額	差引評価差額
小高字内畑6103番	原野	376	昭和47年度	0	13,375	13,375
四ツ屋字浦畑110番3外	宅地	64	昭和40年度	0	1,010	1,010
日之出町168番外	雑種地	356	昭和34年度	0	7,426	7,426
大曲字砂押2869番2外	宅地	671	昭和30年度	0	16,100	16,100
五千石字川原4452番21	宅地	99	昭和40年度	0	2,591	2,591
国上字居下4146番7外	宅地	11,036	昭和51年度	0	104,054	104,054
砂子塚字上川原3885番6	雑種地	3,640	昭和54年度	0	93,080	93,080
合 計				0	237,636	237,636

## 2 償却資産

## (1) 普通建設事業費に係るもの

(単位:千円、㎡)

名称	延床面積	用途	取得年度	取得価額	償却累計額	帳簿価格	回収可能価額	差引評価差額
所在地		構造						
たのうら燕	1,397	旧保養所	昭和56年度	357,130	357,130	0	0	0
新潟市西蒲区間瀬		鉄筋コンクリート造						
合 計				357,130	357,130	0	0	0

## 3 合計

(単位:千円)

区分		取得価額又は帳簿価額	回収可能価額	差引評価差額
土地	普通建設事業費に係るもの	364,021	241,918	△ 122,103
	寄附、無償譲渡に係るもの	0	237,636	237,636
償却資産	普通建設事業費に係るもの	0	0	0
	寄附、無償譲渡に係るもの	0	0	0
合 計		364,021	479,554	115,533

※「回収可能価額」が売却可能資産における貸借対照表計上額です。

## ② 投資等

「投資等」には、第三セクター等への出資金や奨学金等の貸付金、基金、回収期限が到来してから1年以上回収できない債権（長期延滞債権）などが計上されています。

## ア 投資及び出資金

「投資及び出資金」とは、公益法人等に対する出資金・出えん金で、これらは公益法人等を通じて行政サービスの提供に活用されているものです。本市の場合は、合計で2億4,561万円を計上しています。

なお、「投資及び出資金」の明細は、付属資料3「投資及び出資金明細表」で確認できます。

## 付属資料3

## 投資及び出資金明細表（平成25年3月31日現在）

## 時価のないもの

## (1) 連結対象団体に対するもの

(単位:千円)

出資(出えん)先名	取得価額 (A)	前年度までの 投資損失計上 額 (B)	帳簿価額 (C)=(A)-(B)	出資(出えん) 割合(%) (D)	出資(出えん) 先の純資産額 (E)	実質価額 (F)=(D)×(E)	投資損失 引当金 (G)=(A)-(F)	投資損失 (G)-(B)	(参考) 財産に関する 調書記載額
(公財)燕西蒲勤労者福祉サービスセンター	53,000		53,000	81.288%	182,762	148,564			53,000
<b>合 計</b>	53,000		53,000		182,762	148,564			53,000

## (2) 連結対象団体以外に対するもの

(単位:千円)

出資(出えん)先名	取得価額 (A)	前年度までの 投資損失計上 額 (B)	帳簿価額 (C)=(A)-(B)	出資(出えん) 割合(%) (D)	出資(出えん) 先の純資産額 (E)	実質価額 (F)=(D)×(E)	投資損失 (C)-(F)	(参考) 財産に関する 調書記載額
株券(新潟ふるさと村)	1,600	1,600		0.533%	30,404	162		1,600
新潟県信用保証協会	111,302		111,302	1.314%	47,278,599	621,241		111,302
新潟県労働者信用基金協会	19,590		19,590	1.592%	3,094,214	49,260		19,590
(財)新潟県臓器移植推進財団	412		412	4.120%	164,598	6,781		412
(公財)にいがた産業創造機構	610		610	0.236%	6,331,031	14,941		610
(公財)新潟県国際交流協会	7,530		7,530	0.417%	1,805,789	7,530		7,530
(財)新潟県環境保全事業団	650		650	4.333%	803,802	34,829		650
(財)新潟県暴力追放運動推進センター	1,870		1,870	0.374%	554,766	2,075		1,870
(一財)燕三条地場産業振興センター	10,000		10,000	22.727%	2,163,287	491,650		10,000
(公財)新潟工学振興会	1,300		1,300	4.480%	344,817	15,448		1,300
(福)桜井の里福祉会	5,000		5,000	25.000%	3,303,177	825,794		5,000
(一財)砂防フロンティア整備推進機構	25		25	0.004%	2,500,772	100		25
(公社)新潟県畜産協会	300		300	0.026%	1,059,820	276		300
(社)新潟県農作物価格安定協会	450		450	0.032%	1,973,725	632		450
新潟県農業信用基金協会	6,740		6,740	0.140%	10,926,089	15,297		6,740
県央土地開発公社	2,089		2,089	33.400%	1,402,946	468,584		2,089
(社)新潟県私学振興会	639		639	0.399%	231,734	925		639
(財)新潟県都市緑花センター	3,050		3,050	0.500%	696,873	3,484		3,050
(株)吉田環境衛生公社	15,000		15,000	41.666%	204,830	85,344		15,000
(社)新潟県農林公社	200		200	0.760%	2,459,553	18,693		200
中越よつば森林組合	50		50	0.170%	179,970	306		50
地方公共団体金融機構	5,800		5,800	0.035%	113,520,000	39,732		5,800
<b>合 計</b>	194,207	1,600	192,607		201,030,796	2,703,083		194,207

## (3) 合計

(単位:千円)

	取得価額	前年度までの 投資損失計上 額	帳簿価額	投資損失 引当金	投資損失	(参考) 財産に関する 調書記載額
<b>合 計</b>	247,207	1,600	245,607			247,207

## イ 貸付金

「貸付金」には、奨学金などの福祉的な目的の貸付金や産業振興目的の貸付金があります。本市では、奨学金の貸付金や老人保健施設整備の貸付金で4億3,830万円を計上しています。

付属資料4

### 貸付金明細表（平成24年度）

（単位：千円）

貸付金名称	貸借対照表価額 （平成24年度末現在高）	回収不能見込額
児童福祉施設整備事業貸付金	4,500	0
奨学金貸付金（仲治基金含む）	427,620	0
地域総合整備資金貸付金	6,181	0
合 計	438,301	0

## ウ 基金等

「基金等」には、退職手当目的基金、特定の目的に資金を積み立てる特定目的基金（「その他特定目的基金」）、特定の目的のために定額の資金を運用する定額運用基金（「土地開発基金」、「その他定額運用基金」）、「退職手当組合積立金」が該当します。本市では、これら合計で21億9,177万円を計上しています。

退職手当組合に加入している場合は、その団体の持分相当額が「退職手当組合積立金」に計上されますが、退職手当組合に支払った負担金よりも退職手当組合から受け取った退職手当の方が多い場合は、「退職手当組合積立金」の額はゼロとなり、その不足分は負債の「退職手当引当金」に加算されます。本市の場合は、退職手当組合に対する負担金の納入不足が生じており、6億6,663万円が「退職手当引当金」に加算されています。

付属資料5

### 基金等明細表（平成25年3月31日現在）

（単位：千円）

貸借対照表区分	基金区分	名 称	現金・預金	土地		その他	貸借対照表計上額	（参考）財産に関する調査等記載額
				帳簿価額	資産評価差額			
流動資産	積立基金	財政調整基金	3,613,827				3,613,827	3,613,827
		減債基金	308,320				308,320	308,320
投資等	積立基金	退職手当目的基金	0				0	0
		その他特定目的基金	1,538,372				1,538,372	1,538,372
	定額運用基金	土地開発基金	117,220	532,708	1,473		651,401	649,928
		その他定額運用基金	0			2,000	2,000	2,000
合 計		5,577,739	532,708	1,473	2,000	6,113,920	6,112,447	

## エ 長期延滞債権

「長期延滞債権」とは、納付期限や回収期限から1年以上経過しているにもかかわらず、いまだに収入されていない債権を指します。本市では、市税や市営住宅使用料等の滞納繰越分5億3,614万円を計上しています。

## オ 回収不能見込額

「貸付金」及び「長期延滞債権」のうち回収不能となることが見込まれている金額を「回収不能見込額」として表示しています。本市の場合、「長期延滞債権」のうち1億2,454万円が回収不能となることが見込まれています。

### ③ 流動資産

「流動資産」には、現金や必要に応じてすぐに使える基金、市税等の未収入金が計上されます。

#### ア 現金預金

「現金預金」には、「財政調整基金」、「減債基金」、「歳計現金」があります。「財政調整基金」や「減債基金」は将来の収入減や不測の支出、地方債の償還に備えて積み立てている基金です。これらの残額が多ければ今後の財政運営に比較的余裕があると言えます。また、「歳計現金」はその年度の収入から支出を差し引いた残高です。本市では、これら合計で50億7,176万円計上しています。

#### イ 未収金

「未収金」は、その年度の歳入として調定したが、まだ収入がないものを「地方税」と地方税以外の「その他」に区分して表示しています。なお、納付（回収）期限から1年以上経過した債権は「長期延滞債権」に計上されますので、「未収金」には、滞納期間が1年未満の債権のみが計上されていることとなります。また、「長期延滞債権」と同様に「回収不能見込額」も計上されます。本市では、「地方税」と「その他」を合わせて1億5,074万円の未収金を計上していますが、そのうち3,430万円が回収不能となることが見込まれています。

付属資料6

### 未収金・長期延滞債権明細表(平成24年度)

(単位：千円)

区 分	平成24年度収入未済額 ①	①のうち平成24年度調定分		①のうち平成23年度以前調定分		
		未 収 金	回収不能見込額	長期延滞債権	回収不能見込額	
地方税	個人市民税	202,536	51,038	9,442	151,498	28,027
	法人市民税	19,338	2,430	1,276	16,908	8,877
	固定資産税	402,230	83,979	22,422	318,251	84,973
	軽自動車税	11,245	3,228	952	8,017	2,365
	計	635,349	140,675	34,092	494,674	124,242
その他	老人ホーム入所者負担金	37			37	
	公立保育園保育実施負担金	14,967	4,506		10,461	
	私立保育園保育実施負担金	4,121	819		3,302	
	児童クラブ実施負担金	1,493	381		1,112	
	社会福祉施設目的外使用料	35	35			
	市営住宅使用料	22,437	2,948		19,489	
	市営住宅駐車場使用料	105	54		51	
	市有住宅使用料	4,675	16		4,659	
	幼稚園保育料	180	150		30	
	督促手数料	2,073	859	208	1,214	294
	寝具乾燥手数料					
	公営住宅家賃等督促手数料	181	31		150	
	老人デイサービス事業利用者負担金	17	5		12	
	配食サービス事業利用者負担金	140	16		124	
	過年度分延長保育負担金	216			216	
	児童クラブ間食費負担金	607	173		434	
	緊急通報システム利用者負担金	5	5			
	県営住宅風呂貸付料	2			2	2
	介護手当誤支給による返還金	164			164	
	福祉課	13			13	
健康づくり課	63	63				
計	51,531	10,061	208	41,470	296	
合 計	686,880	150,736	34,300	536,144	124,538	

※「回収不能見込額」については、過去5年間の不納欠損実績率に基づき算定しています。

$$\text{不納欠損実績率} = \frac{\text{過去5年間の不納欠損累計額}}{\text{過去5年間の滞納繰越収入額累計額} + \text{過去5年間の不納欠損累計額}}$$

## (2) 負債の部

### ① 固定負債

「固定負債」とは、貸借対照表作成基準日の翌日から1年以降に支払や返済が行われる予定のものをいいます。

#### ア 地方債

「地方債」には、地方債現在高のうち翌々年度以降に償還されるものが計上されます。したがって、地方債残高の総額は、固定負債の「地方債」と流動負債の「翌年度償還予定地方債」を合計したものととなります。本市では、「地方債」の393億3,730万円と「翌年度償還予定地方債」の29億56万円を合計した地方債残高の総額は422億3,786万円となっています。

#### イ 長期未払金

「長期未払金」とは、債務負担行為に基づき既に物件の引渡しやサービスの提供を受けたものについて、まだ支払っていない額のうち翌々年度以降に支払うものが計上されます。本市では、企業誘致促進補助事業に伴う債務保証の履行確定額のうち、翌々年度以降に支払う6,234万円を計上しています。

#### ウ 退職手当引当金

「退職手当引当金」とは、職員が当該年度末時点で退職した場合に必要な退職手当額です。「退職手当引当金」に見合う「退職手当目的基金」や「退職手当組合積立金」が計上されていない場合は、その差額分の退職手当の支払いは将来の税金などにより賄わなければならないこととなります。本市では、「退職手当引当金」として、62億3,018万円を計上しており、このうち退職手当組合に対する負担金の納入不足分は6億6,663万円となっています。なお、「退職手当引当金」は、将来負担比率の算定における将来負担額の退職手当負担見込額と一致します。

#### エ 損失補償等引当金

「損失補償等引当金」とは、第三セクター等の損失補償債務に係る引当金で、損失補償契約に基づき履行すべき額が確定したものと、履行すべき額が確定していないもののうち、将来負担比率の算定に含めた将来負担額が該当します。本市では、将来負担額に含めた第三セクター等債務負担見込額1億8,481万円（新潟県燕三条地場産業振興センターに対する損失補償等）を計上しています。

### ② 流動負債

「流動負債」とは、1年以内に支払や返済をしなければならないものをいいます。

#### ア 翌年度償還予定地方債

「翌年度償還予定地方債」とは、地方債現在高のうち翌年度償還予定額です。本市では、29億56万円を計上しています。

#### イ 短期借入金（翌年度繰上充用金）

収支不足が発生した場合は、翌年度の予算から前借りすることになりますが、この前借り額（収支不足額）が「短期借入金（翌年度繰上充用金）」として計上されます。本市の場合は、収支不足が発生していないため計上はありません。

## ウ 未払金

債務負担行為に基づき既に物件の引渡しやサービスの提供を受けたものについて、翌々年度以降の支出予定額が固定負債の「長期未払金」で、翌年度支払予定額は「未払金」として計上されます。本市では、企業誘致促進補助事業に伴う債務保証の履行確定額のうち、翌年度に支払う1,003万円を計上しています。

## エ 翌年度支払予定退職手当

「翌年度支払予定退職手当」とは、職員に支払う退職手当のうち翌年度支払予定額です。したがって、「翌年度支払予定退職手当」と固定負債の「退職手当引当金」とを合計した額が、職員が現時点で退職した場合に必要な退職手当の合計額となります。なお、本市では、退職手当組合に加入しており、本市から退職手当を支払わないため「翌年度支払予定退職手当」の計上はありません。

## オ 賞与引当金

「賞与引当金」とは、翌年度に支給される賞与のうち当年度に発生した額です。本市では、平成25年度6月支給期末勤勉手当3億5,315万円のうち当年度に発生した2億3,544万円を計上しています。

### (3) 純資産の部

#### ① 公共資産等整備国県補助金等

「公共資産等整備国県補助金等」とは、公共資産と投資等を整備した財源のうち、国・県から補助を受けた額です。また、有形固定資産と同様に減価償却累計額控除後の金額となります。本市では、197億8,736万円を計上しています。

#### ② 公共資産等整備一般財源等

「公共資産等整備一般財源等」とは、公共資産と投資等を整備した財源のうち、上記の「公共資産整備等国県補助金等」と建設地方債を除いた額です。本市では、897億2,344万円を計上しています。

#### ③ その他一般財源等

「その他一般財源等」とは、公共資産と投資等以外の資産から公共資産等整備財源以外の負債を差し引いた額で、将来自由に財源として使える純資産を表しています。本市では、△168億5,155万円を計上しており、翌年度以降の負担額のうち168億5,155万円については、用途がすでに拘束されていることとなります。ただし、本市が例外的なわけではなく、多くの団体は「その他一般財源等」はマイナスになっています。これは、資産形成を伴わない負債項目である臨時財政対策債、減税補てん債や退職手当引当金などの引当金が、流動資産など将来自由に使える財源の残高を上回り、将来の一般財源をいわば先食いし、将来の用途がすでに拘束されている状態を表しています。

臨時財政対策債や減税補てん債などの赤字地方債は、地方交付税措置の代替措置として発行が認められたものであり、その償還財源は地方交付税により賄うことが見込まれています。新地方公会計モデルでは、将来の交付税措置額を例えば未収金などの資産として認識していないため、その他一般財源等がマイナス表示となる一因となっています。

**④ 資産評価差額**

「資産評価差額」には、「売却可能資産」土地の取得価額と売却可能価額との差額、「売却可能資産」償却資産の帳簿価格と売却可能資産との差額、土地開発基金の土地のうち売却可能価額で評価した売却可能価額と帳簿価額との差額の合計が計上されます。

本市の場合は、「売却可能資産」土地の取得価額と売却可能価額との差額で1億1,553万円、土地開発基金の売却可能価額と帳簿価額との差額で147万円で、「資産評価差額」の合計は1億1,701万円となっています。

**(4) 注記****① 他団体及び民間への支出金により形成された資産**

自団体で整備した資産以外に他団体及び民間への支出金により形成された資産を計上しています。貸借対照表に計上している有形固定資産と同様に減価償却累計額控除後の金額となります。

本市では、他団体及び民間への支出金により形成された資産63億5,315万円を計上しています。貸借対照表に計上した公共資産合計1,332億6,142万円と、この注記金額との合算額1,396億1,457万円が、本市がこれまでに整備を行ってきた資産の合計となります。

**② 債務負担行為に関する情報**

「債務負担行為に関する情報」には、貸借対照表の「長期未払金」、「未払金」に計上したものの以外に債務負担行為に基づき将来負担となる可能性があるものが計上されています。本市の場合、債務負担行為に基づく「長期未払金」、「未払金」に計上した7,237万円以外に、将来負担となる可能性があるものとして、「物権の購入等」に8,674万円、「債務保証又は損失補償」に3億7,958万円、「その他」利子補給等に係るもの18億9,202万円を計上しています。

**③ 交付税措置地方債の金額**

地方債残高のうち償還財源として地方交付税の算定の基礎に含まれることが見込まれる額です。本市では、地方債残高422億3,786万円のうち312億8,458万円については、将来の地方交付税の算定基礎に含まれることが見込まれています。

**④ 土地及び減価償却累計額**

有形固定資産のうち、土地の金額と減価償却累計額を注記しています。本市では、有形固定資産合計額1,327億8,187万円のうち、土地の金額は472億3,790万円ですので、償却資産は855億4,397万円となります。償却資産の取得価額1,564億117万円に対して、減価償却累計額は708億5,720万円となっています。

## III 行政コスト計算書

### 1 行政コスト計算書の説明

#### (1) 行政コスト計算書とは

行政コスト計算書とは、一会計期間において、資産形成に結びつかない経常的な行政活動に係る経費（経常行政コスト）と、その行政活動と直接の対価性ある使用料・手数料などの収益（経常収益）を対比させた財務書類です。経常行政コストと経常収益との差額として、地方公共団体の一会計期間中の行政活動のうち、資産形成に結びつかない経常的な活動について税込等でまかなうべき純経常費用（純経常行政コスト）が明らかにされます。

貸借対照表が、これまでの行政活動によって形成された建物・土地などの資産と、その財源である地方債などのストック情報を表したものであるのに対し、行政コスト計算書は、人的サービスや給付サービスなどの資産形成につながらない行政サービスの活動実績をコストという側面から把握したフロー情報を表したものとなります。

#### (2) 損益計算書と行政コスト計算書との違い

行政コスト計算書は、企業会計における損益計算書に対応するものといえますが、損益計算書が一会計期間の営業活動に伴う収益・費用を対比して「当期純利益」を計算するのに対して、行政コスト計算書は一会計期間の経常的な行政活動に伴う費用と収益を対比して「純経常費用（純経常行政コスト）」を算出する点で大きく異なります。

地方公共団体の行政活動は企業のように利益の獲得を目的としないこと、新地方公会計モデルでは、税金を行政コスト計算書ではなく、純資産変動計算書に計上することと関係します。これは、損益計算書の収益として計上される売上高は企業が提供する財貨やサービスの直接の対価であるのに対して、税金は対価性なく住民から徴収される財源であり、行政コスト計算書が対象とする経常的な行政活動のほか、インフラ資産などの資産形成等にも用いられることを予定した財源であることによります。

#### (3) 行政コスト計算書の構成要素

行政コスト計算書は、「経常行政コスト」と「経常収益」から構成され、「経常行政コスト」から「経常収益」を差し引きしたものが「純経常行政コスト」になります。また、行政コスト計算書は、性質別と行政目的別に表示されています。

性質別行政コスト、経常収益		行政目的					
		総額	.....	教育	福祉	.....	.....
性質	【経常行政コスト】						
	人件費			700			
	物件費			1,300			
	計 a			2,000			
性質	【経常収益】						
	使用料・手数料			100			
	計 b			100			
	純経常行政コスト a - b			1,900			

目的別行政コスト、経常収益

行政コスト計算書を縦方向に見る「性質別行政コスト」では、資産形成に結びつかない1年間の行政サービスを提供するにあたって、人件費や物件費、補助金といったどのような性質の経費が用いられたか、またこのような行政サービスの見返りとしての使用料や手数料といった受益者負担がどの程度であったかを把握することができます。

一方、行政コスト計算書を横方向に見る「目的別行政コスト」では、経常行政コストと経常収益が、生活インフラ・国土保全、教育、福祉といった行政目的別にそれぞれどの程度であるかを見ることができます。

## 2 燕市の普通会計行政コスト計算書

### 行政コスト計算書

自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日

【経常行政コスト】

(単位：千円)

	総額	(構成比率)	生活インフラ・国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	議会	支払利息	回収不能見込計上額	その他
1 (1)人件費	3,916,026	14.9%	336,061	648,591	1,210,743	303,761	254,296	120	988,254	174,200			
(2)退職手当引当金繰入等	318,323	1.2%	15,511	55,845	109,017	28,099	21,930		84,452	3,469			
(3)賞与引当金繰入額	235,436	0.9%	10,399	40,789	76,216	19,180	15,958	7	61,889	10,998			
小計	4,469,785	17.0%	361,971	745,225	1,395,976	351,040	292,184	127	1,134,595	188,667			
2 (1)物件費	3,907,832	14.8%	499,558	1,170,294	509,047	968,074	179,657	32,326	535,820	13,056			
(2)維持補修費	294,549	1.1%	190,081	51,990	12,625	28,176	4,043	2,802	4,832				
(3)減価償却費	3,311,095	12.6%	1,360,820	965,693	262,959	66,811	444,043	82,095	128,674				
小計	7,513,476	28.5%	2,050,459	2,187,977	784,631	1,063,061	627,743	117,223	669,326	13,056			
3 (1)社会保障給付	4,670,917	17.7%		98,952	4,312,574	259,391							
(2)補助金等	4,830,592	18.3%	82,090	109,980	542,978	2,144,505	538,428	1,334,572	74,870	3,169			
(3)他会計等への支出額	3,552,344	13.5%	1,351,408		2,198,788	2,148							
(4)他団体への公共資産整備補助金等	845,495	3.2%	73,509		598,009	6,177	164,254		3,546				
小計	13,899,348	52.8%	1,507,007	208,932	7,652,349	2,412,221	702,682	1,334,572	78,416	3,169			
4 (1)支払利息	420,812	1.6%									420,812		
(2)回収不能見込計上額	14,092	0.1%										14,092	
(3)その他行政コスト	30,537	0.1%											30,537
小計	465,441	1.8%									420,812	14,092	30,537
経常行政コスト a	26,348,050		3,919,437	3,142,134	9,832,956	3,826,322	1,622,609	1,451,922	1,882,337	204,892	420,812	14,092	30,537
(構成比率)			14.9%	11.9%	37.3%	14.5%	6.2%	5.5%	7.1%	0.8%	1.6%	0.1%	0.1%

【経常収益】

一般財源振替額

1 使用料・手数料 b	755,008		55,940	25,374	455,118	99,831	12,728		40,499				65,518	
2 分担金・負担金・寄附金 c	200,436			9,751	143,936	547	30,386						15,816	
経常収益合計 (b+c) d	955,444		55,940	35,125	599,054	100,378	43,114		40,499				81,334	
d/a	3.63%		1.4%	1.1%	6.1%	2.6%	2.7%		2.2%					
(差引)純経常行政コスト a-d	25,392,606		3,863,497	3,107,009	9,233,902	3,725,944	1,579,495	1,451,922	1,841,838	204,892	420,812	14,092	30,537	△ 81,334

### 3 普通会計行政コスト計算書による燕市の財政状況

#### (1) 性質別行政コスト

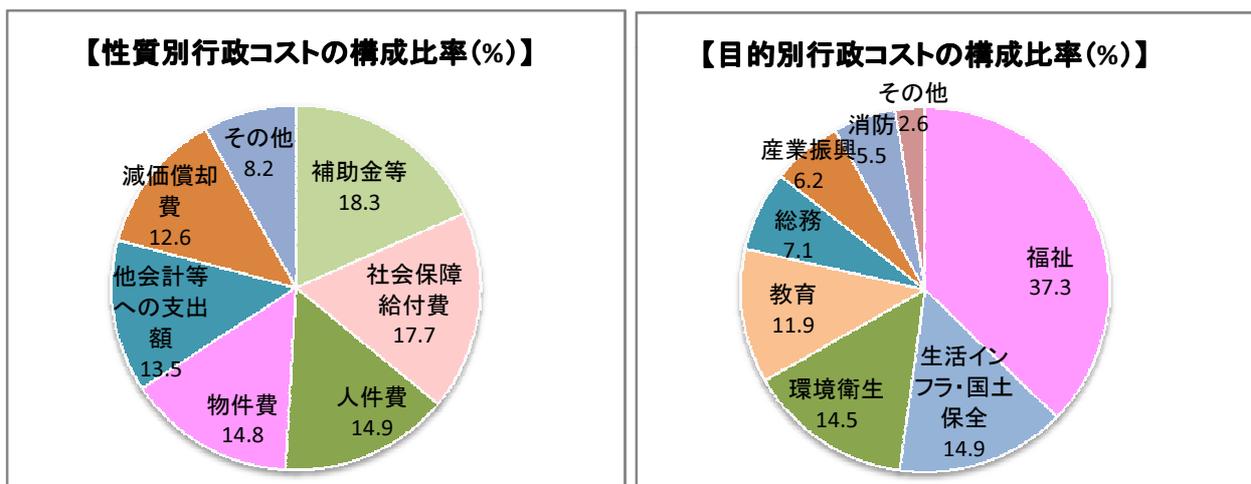
本市の行政コスト計算書を性質別にその内訳を見ると、補助金等48億3,059万円（構成比率18.3%）、社会保障給付46億7,092万円（構成比率17.7%）、人件費39億1,603万円（同14.9%）となっています。

同じ行政サービスを提供するにしても、職員自らがその活動を行えば人件費の割合が大きくなります。一方、外部の団体等に委託しその団体がサービスを提供したり、施設を賃借し行政サービスを提供すると物件費の割合が高くなります。また、自前の施設を建設して行政サービスを提供する場合は、減価償却費の割合が高くなります。このように、どのような手法で行政サービスを提供するかによって、コスト構造は異なってきます。

#### (2) 目的別行政コスト

経常行政コストを目的別にみることによって、その自治体がどのような行政分野に力を入れているか把握することができます。

本市の行政コスト計算書を目的別にその内訳を見ると、福祉に98億3,296万円（構成比率37.3%）、生活インフラ・国土保全に39億1,944万円（同14.9%）、環境衛生に38億2,632万円（同14.5%）、教育に31億4,213万円（同11.9%）となっており、本市が福祉分野、生活インフラ、環境衛生、教育に力を入れていることが分かります。



#### (3) 経常収益

経常収益は、性質別には使用料・手数料と分担金・負担金・寄附金に分けて表示され、それぞれ1年間の収入予定額を表しています。本市では、使用料・手数料が7億5,501万円、分担金・負担金・寄附金が2億44万円となっています。

#### (4) 純経常行政コスト

経常行政コストと経常収益とを比べると一般的には大幅なコスト超過になっています。これは、行政サービスを提供する上で最も重要な財源である地方税や地方交付税といった一般財源が経常収益に含まれていないためです。この経常行政コストと経常収益との差額である純経常行政コストが、地方公共団体の一会計期間中の行政活動のうち、資産形成に結びつかない経常的な活動について税収等で賄うべき額ということになります。

## IV 純資産変動計算書

### 1 純資産変動計算書の説明

#### (1) 純資産変動計算書とは

純資産変動計算書とは、貸借対照表の純資産の部に計上されている各項目が1年間でどのように変動したかを表している財務書類です。貸借対照表の純資産の部は今までの世代が負担してきた部分ですので、1年間で今までの世代が負担してきた部分が増えたのか減ったのかが分かります。

純資産変動計算書においては、地方税、地方交付税などの一般財源、国県支出金などの特定財源が純資産の増加要因として直接計上され、行政コスト計算書で算出された純経常行政コストが純資産の減少要因として計上されることなどを通じて、1年間の純資産総額の変動が明らかにされます。

### 2 燕市の普通会計純資産変動計算書

#### 純資産変動計算書

〔 自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日 〕

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	92,127,685	18,801,601	90,050,197	△ 16,812,680	88,567
純経常行政コスト	△ 25,392,606			△ 25,392,606	
一般財源					
地方税	10,333,958			10,333,958	
地方交付税	8,407,128			8,407,128	
その他行政コスト充当財源	1,688,313			1,688,313	
補助金等受入	5,423,116	1,630,686		3,792,430	
臨時損益					
災害復旧事業費	△ 30,076			△ 30,076	
公共資産除売却損益	164,488			164,488	
投資損失					
損失補償等引当金繰入等	24,823			24,823	
科目振替					
公共資産整備への財源投入			918,429	△ 918,429	
公共資産処分による財源増			△ 17,142	17,142	
貸付金・出資金等への財源投入			3,271,095	△ 3,271,095	
貸付金・出資金等の回収等による財源増			△ 3,591,676	3,591,676	
減価償却による財源増		△ 644,923	△ 2,666,172	3,311,095	
地方債償還等に伴う財源振替			1,757,714	△ 1,757,714	
資産評価替えによる変動額	28,439				28,439
無償受贈資産受入					
その他	993		993		
期末純資産残高	92,776,261	19,787,364	89,723,438	△ 16,851,547	117,006

### 3 普通会計純資産計算書による燕市の財政状況

#### (1) 純経常行政コストと一般財源

行政コスト計算書から転記された純経常行政コストの金額に対して、一般財源及び経常的な補助金等受入の金額を見ることにより、純経常行政コストが受益者負担以外の経常的な財源によりどの程度賄われているかが分かります。

本市では、純経常行政コスト253億9,261万円に対して、地方税など経常的な一般財源が204億2,940万円、公共資産等整備国県補助金等を除いた経常的なコストに対する補助金の受入が37億9,243万円であり、11億7,078万円のコスト超過となっています。なお、純経常行政コストに含まれている減価償却費には、本市が実質的に負担していない国県補助金等を財源とした部分6億4,492万円が含まれているため、これを考慮すると実質的なコスト超過は5億2,585万円となります。

#### (2) 臨時損益

経常的なコストや財源のほかに、災害復旧事業や公共資産除売却などの臨時的な要因によるコストや収入が臨時損益に計上されます。

本市では、△3,008万円の災害復旧事業費の損失、1億6,449万円の公共資産の売却に伴う利益が発生し、また、貸借対照表に計上される損失補償等引当金の前年度比2,482万円減は純資産額の増加要因として臨時損益に計上されています。

#### (3) 資産評価替えによる変動額

売却可能資産等の時価評価による増減額や資産の無償譲渡による増益は、潜在的な一般財源を増減させるため資産評価差額の増減として計上されます。

本市の資産評価差額の増減は、売却可能資産の評価替え及び増加に伴う2,844万円の増加によるものです。

これらの純資産変動の結果、本市では純資産全体として6億4,858万円増加しました。この主な要因は、震災の復旧・復興のための地方交付税や国庫補助金の受入等によるもので、将来の世代の負担を伴わない公共資産整備が行われたこととなります。

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	92,127,685	18,801,601	90,050,197	△ 16,812,680	88,567
期末純資産残高	92,776,261	19,787,364	89,723,438	△ 16,851,547	117,006
増 減	648,576	985,763	△ 326,759	△ 38,867	28,439

## V 資金収支計算書

### 1 資金収支計算書の説明

#### (1) 資金収支計算書とは

資金収支計算書とは、一会計期間における、地方公共団体の行政活動に伴う現金等の資金の流れを性質の異なる3つの区分「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」、「投資・財務的収支の部」に分けて表示した財務書類です。現金等の収支の流れを表したものであることから、キャッシュフロー計算書とも呼ばれます。

現金収支については、現行の歳入歳出決算書においても明らかにされますが、資金収支計算書においては、「経常的収支」「公共資産整備収支」「投資・財務的収支」という性質の異なる三つの活動に大別して記載され、地方公共団体の資金が期首残高から期末残高へと増減した原因が明らかにされるのが特徴です。

資金収支計算書は、1年間の歳入と歳出の現金収支の状況を表したものであるため、4つの財務書類のうち唯一現金主義に基づいて作成されています。

#### ① 経常的収支の部

「経常的収支」が対象とする「支出」は、基本的に行政コスト計算書が発生主義で計上する資産形成を伴わない経常的な行政活動に伴う費用を現金主義で捉え直したものであり、「収入」は、地方税、地方交付税などの経常的な収入を計上するものです。地方公共団体は、資産形成を伴わない経常的な行政活動のほか、施設の建設や、道路、橋梁などインフラ資産の形成なども行っていかなければなりませんので、経常的収支は黒字に保たれるのが通常です。

#### ② 公共資産整備収支の部

公共資産整備収支の部には、自団体・他団体等を併せた公共資産整備などによる支出とその財源である国県補助金や地方債などによる収入が計上されており、公共事業に伴う資金の用途とその財源の状況が表示されています。

#### ③ 投資・財務的収支の部

投資・財務的収支の部には、投資及び出資金、貸付金、基金積立、地方債の償還などによる支出とその財源である補助金、貸付金元金、地方債の発行などの収入が計上されており、投資活動や地方債の返済による資金収支の状況が表示されています。

以上の3つの区分で表される資金収支計算書からは、自治体がどのような活動に資金が必要とされ、それをどのように賄ったのかが分かるとともに、歳計現金をどのような性質の活動で獲得し、または使用しているのかが分かります。

## 2 燕市の普通会計資金収支計算書

### 資金収支計算書

〔 自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日 〕

(単位:千円)

1 経常的収支の部	
人件費	4,701,408
物件費	3,907,832
社会保障給付	4,670,917
補助金等	5,476,999
支払利息	420,812
他会計等への事務費等充当財源繰出支出	1,793,587
その他支出	324,625
支出合計	21,296,180
地方税	10,293,146
地方交付税	8,407,128
国県補助金等	3,513,553
使用料・手数料	736,580
分担金・負担金・寄附金	161,880
諸収入	103,042
地方債発行額	1,753,100
基金取崩額	1,136,428
その他収入	1,461,763
収入合計	27,566,620
経常的収支額	6,270,440

2 公共資産整備収支の部	
公共資産整備支出	8,459,229
公共資産整備補助金等支出	845,495
他会計等への建設費充当財源繰出支出	35,887
支出合計	9,340,611
国県補助金等	1,909,563
地方債発行額	6,275,200
基金取崩額	57,151
その他収入	52,845
収入合計	8,294,759
公共資産整備収支額	△ 1,045,852

3 投資・財務的収支の部	
投資及び出資金	620
貸付金	3,154,284
基金積立額	2,113,708
定額運用基金への繰出支出	932
他会計等への公債費充当財源繰出支出	1,076,463
地方債償還額	2,712,580
長期未払金支払支出	0
支出合計	9,058,587
国県補助金等	0
貸付金回収額	3,175,581
基金取崩額	52,541
地方債発行額	44,000
公共資産等売却収入	158,795
その他収入	146,626
収入合計	3,577,543
投資・財務的収支額	△ 5,481,044

翌年度繰上充用金増減額	0
当年度歳計現金増減額	△ 256,456
期首歳計現金残高	1,406,067
期末歳計現金残高	1,149,611

#### 注記

※1 一時借入金に関する情報

- ① 資金収支計算書には一時借入金の増減は含まれていません。  
 ② 平成24年度における一時借入金の借入限度額は8,000,000千円です。  
 ③ 支払利息のうち、一時借入金利子は916千円です。

※2 基礎的財政収支(プライマリーバランス)に関する情報

収入総額		39,438,922 千円
地方債発行額	△	8,072,300
財政調整基金等取崩額	△	899,155
支出総額	△	39,695,378
地方債元利償還額		3,132,476
財政調整基金等積立額		2,009,429
基礎的財政収支		△ 4,086,006 千円

### 3 普通会計資金収支計算書による燕市の財政状況

#### (1) 経常的収支の部

支出には、人件費、物件費などの日常の行政サービスを行うにあたって必要な支出や、地方債の支払利息、他会計等に対する繰出金のうち事務費等に充てられるものが計上されています。本市では、補助金等54億7,700万円、人件費47億141万円、社会保障給付46億7,092万円など合計で212億9,618万円の経常的な支出がありました。

一方、収入には、地方税、地方交付税など、日常の行政サービスのための支出を賄う収入や、臨時財政対策債などのいわゆる赤字地方債の発行額、財政調整基金等の基金取崩額が計上されています。本市では、地方税102億9,315万円、地方交付税84億713万円、国県補助金等35億1,355万円など、合計で275億6,662万円の経常的な収入がありました。

そして、経常的収支額62億7,044万円の収支余剰（黒字）で、公共資産整備収支の部と投資・財務的収支の部の収支不足（赤字）の穴埋めをすることになります。

#### (2) 公共資産整備収支の部

支出には、自団体で社会資本を整備する公共資産整備支出、他団体に補助金を支出して公共資産を整備する公共資産整備補助金等支出、他会計への繰出金や補助費等のうち建設費に充てられるものが計上されています。本市では、自団体で行う公共資産整備支出で84億5,923万円など合計で93億4,061万円が公共資産整備のために支出されています。

一方、収入には、公共資産整備支出の財源となった国県補助金等や、地方債発行額、基金取崩額などが計上されています。本市では、地方債発行額62億7,520万円、国県補助金等19億956万円など合計で82億9,476万円となっています。

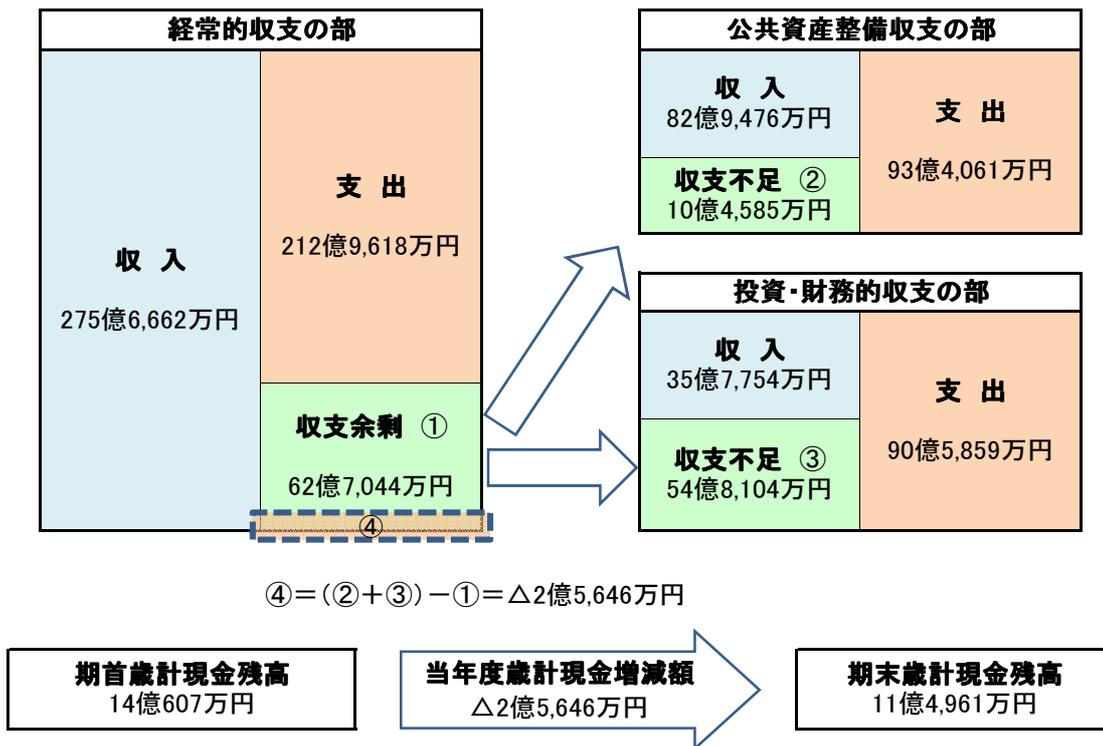
そして、公共資産整備収支額10億4,585万円の収支不足（赤字）の一部は、経常的収支の部の収支余剰で賄われたこととなります。

#### (3) 投資・財務的収支の部

支出には、投資及び出資金、貸付金、基金への積立額、地方債償還額や、他会計等への地方債返済に充当するための繰出金などが計上されています。本市では、貸付金31億5,428万円、地方債償還額27億1,258万円など合計で90億5,859万円となっています。

一方、収入には、投資・財務的支出の財源となった貸付金回収額、公共資産の売払収入が計上されています。本市では、貸付金回収額31億7,558万円など合計で35億7,754万円となっています。

そして、投資・財務的収支額54億8,104万円の収支不足（赤字）の一部は、経常的収支の部の収支余剰で賄われたこととなります。



#### (4) 注記

##### ① 一時借入金に関する情報

一時借入金の借入及び返済は決算上歳入歳出として扱われず資金収支計算書に計上されないため、その状況を注記しています。本市では、一時借入金の借入限度額は予算上80億円となっていますが、実際の一時借入金残高のピークは16億7,000万円です、それに伴う一時借入金利子は92万円でした。

##### ② 基礎的財政収支に関する情報

地方債の発行・償還や財政調整基金等の積立・取崩しを除いた基礎的財政収支（プライマリーバランス）に関する情報を注記しています。本市では、財政調整基金等積立額20億943万円が財政調整基金等取崩額8億9,916万円を上回り、基礎的財政収支を11億1,027万円増加させる要因となりました。また、地方債発行額80億7,230万円が地方債元利償還額31億3,248万円を上回り、基礎的財政収支を49億3,982万円減少させる要因となり、全体で基礎的財政収支は40億8,601万円のマイナスとなりました。

（参考）

地方債発行額80億7,230万円のうち17億1,120万円は、国の財政対策により地方交付税の代替措置として発行している臨時財政対策債であり、本来であれば地方交付税として歳入に含まれるべき額であるため、これを考慮した場合の基礎的財政収支は23億7,481万円のマイナスとなります。

## VI 普通会計財務書類4表の関係

### 1 燕市の普通会計財務書類4表の関係図

#### 【貸借対照表】

(平成25年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
1. 公共資産	133,261,423	1. 固定負債	45,814,619
(1)有形固定資産	132,781,869	(1)地方債	39,337,299
(2)売却可能資産	479,554	(2)退職手当引当金	6,230,175
2. 投資等	3,287,287	(3)その他	247,145
(1)投資及び出資金	245,607	2. 流動負債	3,146,024
(2)貸付金	438,301	(1)翌年度償還予定地方債	2,900,556
(3)基金等	2,191,773	(2)その他	245,468
(4)その他	411,606	<b>負債合計</b>	<b>48,960,643</b>
3. 流動資産	5,188,194	1. 公共資産等整備国県補助金等	19,787,364
(1)財政調整基金	3,613,827	2. 公共資産等整備一般財源等	89,723,438
(2)減債基金	308,320	3. その他一般財源等	△ 16,851,547
<b>(3)歳計現金</b>	<b>1,149,611</b>	4. 資産評価差額	117,006
(4)未収金	116,436	<b>純資産合計</b>	<b>92,776,261</b>
<b>資産合計</b>	<b>141,736,904</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>141,736,904</b>

#### 【資金収支計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

1. 経常的収支額	6,270,440
収入合計	27,566,620
支出合計	21,296,180
2. 公共資産整備収支額	△ 1,045,852
収入合計	8,294,759
支出合計	9,340,611
3. 投資・財務的収支額	△ 5,481,044
収入合計	3,577,543
支出合計	9,058,587
当年度歳計現金増減額	△ 256,456
期首歳計現金残高	1,406,067
<b>期末歳計現金残高</b>	<b>1,149,611</b>
収入総額	39,438,922
支出総額	△ 39,695,378
地方債発行額	△ 8,072,300
地方債元利償還額	3,132,476
財政調整基金等増減額	1,110,274
基礎的財政収支(プライマリーバランス)	△ 4,086,006

#### 【純資産変動計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

期首純資産残高	92,127,685
<b>純経常行政コスト</b>	<b>△ 25,392,606</b>
一般財源	20,429,399
地方税	10,333,958
地方交付税	8,407,128
その他	1,688,313
補助金等受入	5,423,116
経常補助金	3,792,430
建設補助金	1,630,686
臨時損益	159,235
その他	29,432
<b>期末純資産残高</b>	<b>92,776,261</b>

#### 【行政コスト計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

経常行政コスト A		26,348,050
1. 人にかかるコスト		4,469,785
(1)人件費		3,916,026
(2)退職手当引当金繰入等		318,323
(3)賞与引当金繰入額		235,436
2. 物にかかるコスト		7,513,476
(1)物件費		3,907,832
(2)減価償却費		294,549
(3)維持補修費		3,311,095
3. 移転支出的なコスト		13,899,348
(1)社会保障給付		4,670,917
(2)補助金等		4,830,592
(3)他会計等への支出額		3,552,344
(4)他団体への公共資産整備補助金		845,495
4. その他のコスト		465,441
(1)支払利息		420,812
(2)その他		44,629
<b>経常収益 B</b>		<b>955,444</b>
使用料・手数料		755,008
分担金・負担金・寄附金		200,436
<b>純経常行政コスト A-B</b>		<b>25,392,606</b>

#### (1) 普通会計財務書類4表の関係

行政コスト計算書では、経常的な行政サービスを提供することで発生するコスト（経常行政コスト）から受益者負担（経常収益）を控除し、税金や交付税等で賄われるべき純経常行政コストが算出されます。

①この純経常行政コストは一年間の純資産項目の変動状況を示す純資産変動計算書の一項目とされ、②純資産変動計算書により算出された期末純資産残高は、貸借対照表の純資産合計と一致します。

また、③資金収支計算書では一年間の資金の収入から支出を控除し、期首の資金残高に加えて、年度末の資金残高が算出され、その期末残高は、貸借対照表に記載された歳計現金と一致します。

## 2 市民一人当たりの普通会計財務書類4表

### 【貸借対照表】

(平成25年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
1. 公共資産	1,608	1. 固定負債	553
(1)有形固定資産	1,602	(1)地方債	475
(2)売却可能資産	6	(2)退職手当引当金	75
2. 投資等	40	(3)その他	3
(1)投資及び出資金	3	2. 流動負債	38
(2)貸付金	5	(1)翌年度償還予定地方債	35
(3)基金等	26	(2)その他	3
(4)その他	5	<b>負債合計</b>	<b>591</b>
3. 流動資産	63	1. 公共資産等整備国県補助金等	239
(1)財政調整基金	44	2. 公共資産等整備一般財源等	1,083
(2)減債基金	4	3. その他一般財源等	△ 203
<b>(3)歳計現金</b>	<b>14</b>	4. 資産評価差額	1
(4)未収金	1	<b>純資産合計</b>	<b>1,120</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,710</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,710</b>

### 【資金収支計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

1. 経常的収支額	76
収入合計	333
支出合計	257
2. 公共資産整備収支額	△ 13
収入合計	100
支出合計	113
3. 投資・財務的収支額	△ 66
収入合計	43
支出合計	109
当年度歳計現金増減額	△ 3
期首歳計現金残高	17
<b>期末歳計現金残高</b>	<b>14</b>
収入総額	476
支出総額	△ 479
地方債発行額	△ 97
地方債元利償還額	38
財政調整基金等増減額	13
基礎的財政収支(プライマリーバランス)	△ 49

### 【純資産変動計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

期首純資産残高	1,112
<b>純経常行政コスト</b>	<b>△ 306</b>
一般財源	247
地方税	125
地方交付税	101
その他	20
補助金等受入	65
経常補助金	46
建設補助金	20
臨時損益	2
その他	0
<b>期末純資産残高</b>	<b>1,120</b>

### 【行政コスト計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

<b>経常行政コスト A</b>	<b>318</b>
1. 人にかかるコスト	54
(1)人件費	47
(2)退職手当引当金繰入等	4
(3)賞与引当金繰入額	3
2. 物にかかるコスト	91
(1)物件費	47
(2)減価償却費	4
(3)維持補修費	40
3. 移転支的コスト	168
(1)社会保障給付	56
(2)補助金等	58
(3)他会計等への支出額	43
(4)他団体への公共資産整備補助金	10
4. その他のコスト	6
(1)支払利息	5
(2)その他	1
<b>経常収益 B</b>	<b>12</b>
使用料・手数料	9
分担金・負担金・寄附金	2
<b>純経常行政コスト A-B</b>	<b>306</b>

#### (1) 市民一人当たりの財務書類の数値

貸借対照表や行政コスト計算書の各項目の金額を市民一人当たりで算出することにより、他団体との比較がしやすくなります。

市民一人当たりの資産は171万円、負債は59万円となりました。負債の平均値(H23ベース:市区790団体中、作成422団体)は市民一人当たり負債53.3万円ですので、本市においては、全国平均と同程度となります。

※平成25年3月31日現在住民基本台帳人口: 82,867人

※表示単位未満四捨五入していますので、各項目の合計が一致しない場合があります。

## VII 普通会計財務書類4表による分析

ここまで普通会計財務書類4表の各項目について説明してきましたが、ここからはその各項目の数値を用いて燕市がどのような財務状況にあるのか分析していきます。

住民が地方公共団体の財務状況に対して持つ関心事項は、「将来にわたって安定的に行政サービスを受けることができるのか、それを可能にする財政状況にあるのか」にあると言えます。このような住民の関心（ニーズ）に基づき、財務書類4表を用いた各種指標を経年比較や県内各市平均（平成23年度）と比較することより分析していきます。

（注）分析にあたっての留意事項

※ 住民基本台帳人口：平成25年3月31日現在82,867人  
 ※ 県内各市平均：本報告書を作成する時点で県内各市において平成24年度の財務書類が作成されていない団体が多いため、平成23年度の県内各市の財務書類に基づき算定しています。また、財務書類が公表されていない団体の数値は除いて平均を算出しています。（公表：県内12市）

### 1 将来世代に残る資産はどれくらいあるのか？（資産形成度）

資産に関する情報は、歳入歳出決算書に添付される財産に関する調書においても、公有財産、物品、債権、基金などが示されていますが、地積や面積でしか資産の情報が表示されないなど、地方公共団体の保有する資産の価値に関する情報を知り得ることができません。

貸借対照表は、資産の部において地方公共団体が保有する資産のストック情報を一覧表示しており、その項目に基づく指標を用いてその地方公共団体の資産価値に関する分析ができます。

#### (1) 住民一人当たり資産額

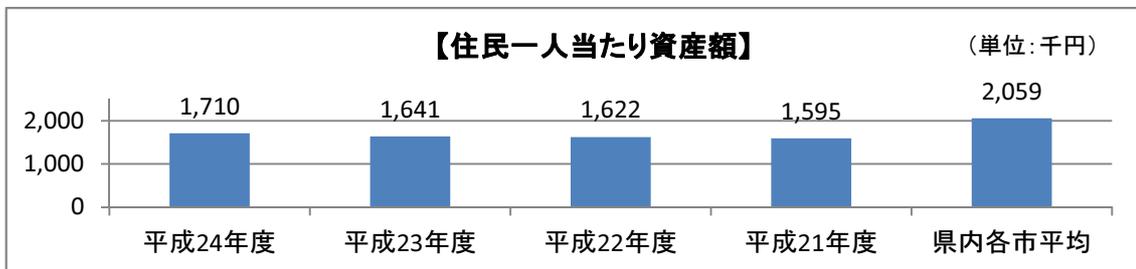
貸借対照表の資産合計から住民一人当たりの資産額を算出することによって、他団体との比較が可能となります。

$$\text{住民一人当たり資産額} = \text{資産合計} \div \text{住民基本台帳人口}$$

【住民一人当たり資産額の経年比較】

（単位：千円）

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
資 産 合 計	141,736,904	135,954,517	134,948,663	133,267,178
住民一人当たり資産額	1,710	1,641	1,622	1,595



本市の「住民一人当たり資産額」は171万円で、平成21年度と比較して11万5千円増加しました。これは主に、合併後に学校施設や道路など新市建設計画に登載された事業を中心に、既存資産の減価償却額以上の社会資本整備を行っているためです。

また、県内各市平均205万9千円と比較して34万9千円少なくなっていますが、本市のように人口密度の高い団体では住民一人当たりの資産額の指標が低く抑えられる傾向にあるようです。

## (2) 歳入額対資産比率

当年度の歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、これまでに形成されたストックとしての資産が歳入の何年分に相当するかが分かり、地方公共団体の資産形成の度合いを測ることができます。

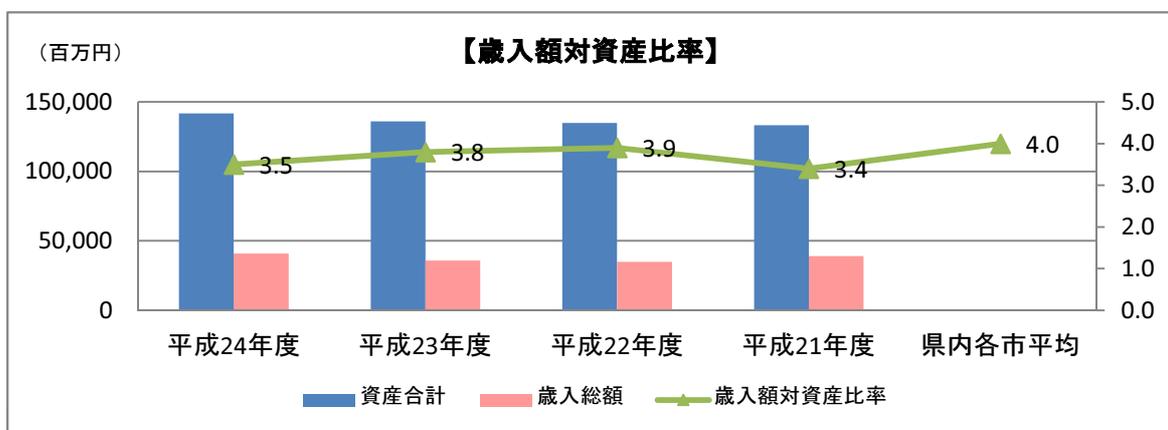
$$\text{歳入額対資産比率} = \text{資産合計} \div \text{歳入総額}$$

※歳入総額：資金収支計算書の各部の収入合計の総額＋期首歳計現金残高

### 【歳入額対資産比率の経年比較】

(単位：千円)

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
資 産 合 計 A	141,736,904	135,954,517	134,948,663	133,267,178
歳 入 総 額 B	40,844,989	35,952,079	34,955,687	38,979,208
歳入額対資産比率 A/B	<b>3.5</b>	<b>3.8</b>	<b>3.9</b>	<b>3.4</b>



本市の「歳入額対資産比率」は3.5で、平成21年度と比較して0.1増加しましたが、前年度と比較して0.3減少しました。これは主に、震災の復旧・復興のための地方交付税や国庫補助金の受入などが歳入総額を押し上げたためです。

平成23年度の比率3.8と県内各市平均4.0と比較しても同程度となっていますので、歳入総額に対する資産形成度は標準的な水準と言えます。

## (3) 資産老朽化比率

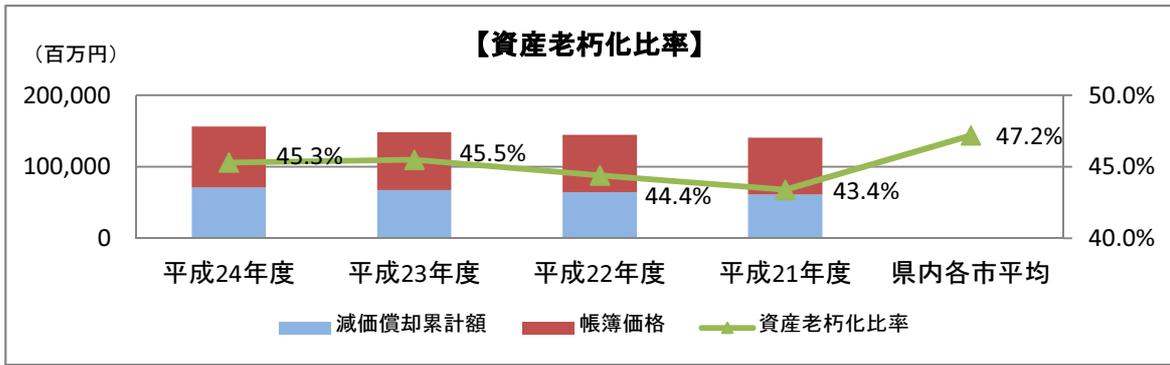
有形固定資産のうち、建物などの償却資産の取得価格に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、地方公共団体が保有する資産が取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができます。

$$\text{資産老朽化比率} = \text{減価償却累計額} \div (\text{有形固定資産} - \text{土地} + \text{減価償却累計額})$$

### 【資産老朽化比率の経年比較】

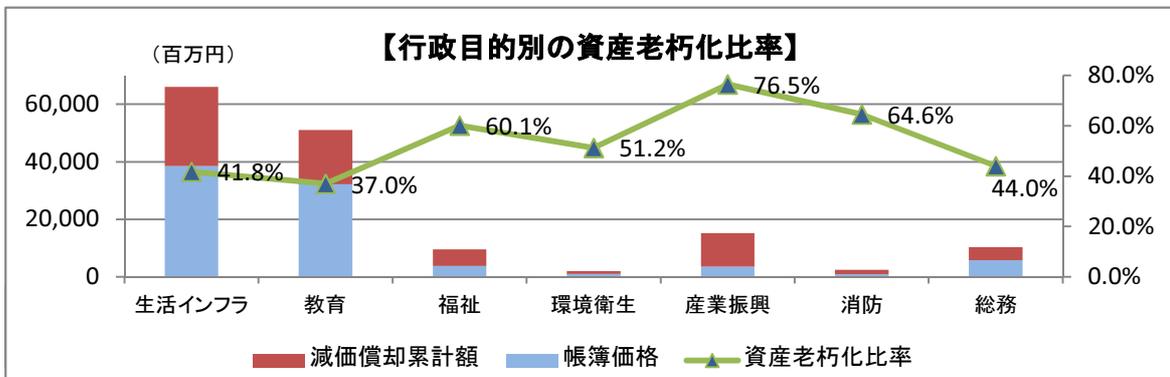
(単位：千円)

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
減 価 償 却 累 計 額	70,857,203	67,546,274	64,288,180	61,098,289
帳 簿 価 格	85,543,967	80,782,570	80,530,772	79,765,866
資 産 老 朽 化 比 率	<b>45.3%</b>	<b>45.5%</b>	<b>44.4%</b>	<b>43.4%</b>



本市では、有形固定資産合計額1,327億8,187万円のうち、土地の金額は472億3,790万円ですので、償却資産は855億4,397万円となります。これに対し、減価償却累計額は708億5,720万円で、償却資産の取得価額1,564億117万円に対して45.3%（資産老朽化比率）の減価償却が進んでいることとなります。

平成21年度と比較して1.9%上昇していますが、県内各市平均47.2%と比較しても同程度の水準となっています。



また、行政目的別に資産老朽化比率をみると、教育（37.0%）の比率が低くなっていますが、これは合併前後において改築、大規模改造など学校施設整備を集中的に行っているためです。一方、産業振興（76.5%）と消防（64.6%）の比率が高くなっていますが、この分野において老朽化が進んでいる施設があることとなります。

## 2 将来世代と現世代との負担の分担は適切か？（世代間公平性）

将来世代の負担となる地方債については、施設の建設など将来にわたって受益の及ぶ資産形成のために発行ができ、その償還年限も当該地方債を財源として建設した公共施設等の耐用年数を超えないこととされ、これにより受益と負担のバランスが保たれるよう配慮されています。

貸借対照表の数値から、このような財政運営の結果として、資産形成における将来世代と現世代までの負担のバランスが適切に保たれているのか、また、どのように推移しているのかを端的に把握することが可能になります。

### (1) 純資産比率

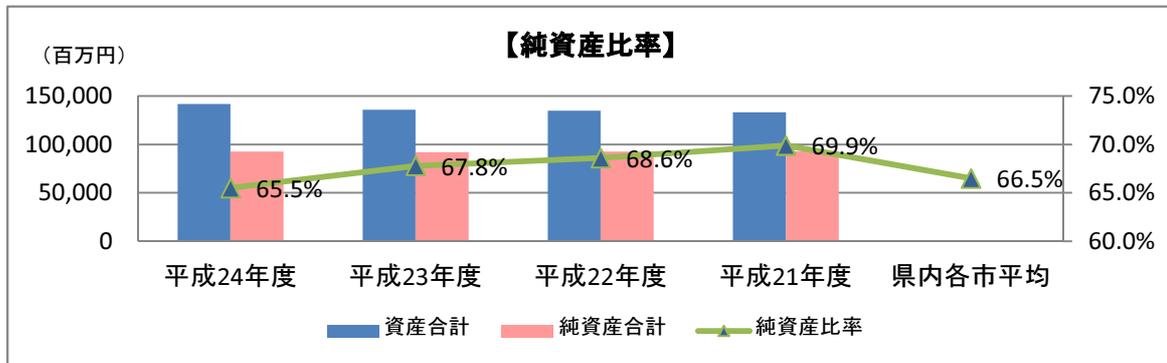
地方公共団体は、地方債の発行を通じて、将来世代と現世代の負担の配分を行います。純資産の変動は、将来世代と現世代との間で負担の割合が変動したことを表し、純資産の減少は現世代が将来世代にとっても利用可能であった資源を費消して便益を享受する一方で、将来世代に負担が先送りされたことを意味し、逆に、純資産の増加は現世代が自らの負担によって将来世代も利用可能な資源を蓄積したことを意味します。

$$\text{純資産比率} = \text{純資産合計} \div \text{資産合計}$$

【純資産比率の経年比較】

(単位:千円)

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
資 産 合 計 A	141,736,904	135,954,517	134,948,663	133,267,178
純 資 産 合 計 B	92,776,261	92,127,685	92,586,703	93,095,905
純 資 産 比 率 B/A	<b>65.5%</b>	<b>67.8%</b>	<b>68.6%</b>	<b>69.9%</b>



本市の「純資産比率」は65.5%で、平成21年度から4.4%減少しました。資産全体から見ると将来世代に負担が先送りされたこととなります。

県内各市平均66.5%と比較して同程度となっており、県内では、純資産比率は標準的な水準となっています。

(2) 将来世代負担比率

将来の償還等が必要な負債による社会資本等の形成割合をみることにより、社会資本形成に係る将来世代の負担の比重を把握することができます。

$$\text{将来世代負担比率} = (\text{※地方債残高}) \div (\text{公共資産} + \text{※投資等})$$

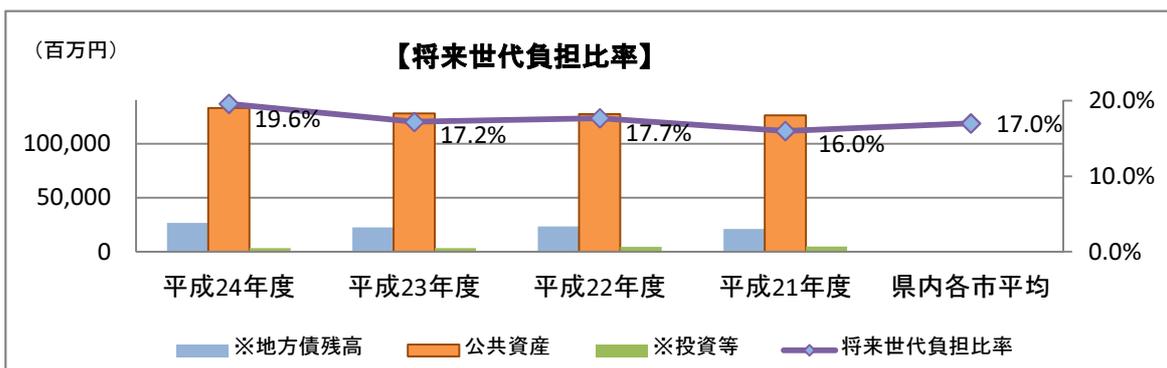
※地方債残高：臨時財政対策債など、普通建設事業費、投資及び出資金、貸付金、積立金、基金に対する繰出金のいずれの財源にならないものは除く

※投資等：公共資産等の整備に充当されないことが明らかな特定目的基金及び退職手当組合積立金を除く

【将来世代負担比率の経年比較】

(単位:千円)

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
※ 地 方 債 残 高	26,794,535	22,576,057	23,390,764	20,941,314
公 共 資 産	133,261,423	128,103,355	127,595,290	126,509,867
※ 投 資 等	3,160,920	3,413,067	4,392,955	4,674,508
将 来 世 代 負 担 比 率	<b>19.6%</b>	<b>17.2%</b>	<b>17.7%</b>	<b>16.0%</b>



本市の「将来世代負担比率」は19.6%で、平成21年度から3.6%上昇しました。これは主に、合併後に学校施設や道路など新市建設計画に登載された事業を集中的に行い、その財源として地方債を起こしているため、合併後10年程度は上昇傾向が続く可能性があります。

しかし、県内各市平均17.0%と比較して同程度となっており、県内では、社会資本形成に係る将来世代の負担度合いは標準的な水準となっています。

### 3 持続可能な財政状況か？（健全性）

持続可能性（健全性）は、財政運営に関する本質的な視点です。これに対しては、財政健全化法の健全化判断比率による分析が行われますが、これに加えて財務書類からも有用な情報を得ることができます。

地方公共団体の負債に関する情報については、現行の予算に関する説明書においても、債務負担行為額及び地方債現在高についてそれぞれ調書が添付されていますが、貸借対照表においては、このほか退職手当引当金や未払金など、発生主義に基づくすべての負債を捉えることができます。

#### (1) 住民一人当たり負債額

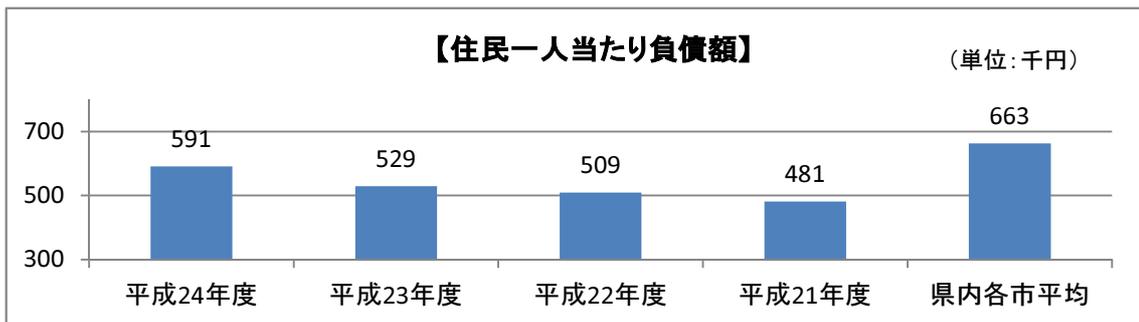
貸借対照表の負債合計から住民一人当たりの負債額を算出することによって、他団体との比較が可能となります。

$$\text{住民一人当たり負債額} = \text{負債合計} \div \text{住民基本台帳人口}$$

【住民一人当たり負債額の経年比較】

(単位:千円)

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
負 債 合 計	48,960,643	43,826,832	42,361,960	40,171,273
住民一人当たり負債額	591	529	509	481



本市の「住民一人当たり負債額」は59万1千円で、平成21年度と比較して11万円増加していますが、これは主に、合併後に学校施設や道路など新市建設計画に登載された事業を集中的に行い、その財源として地方債を起こしているため、合併後10年程度は高い水準が続く可能性があります。

しかし、県内各市平均66万3千円と比較して7万2千円低くなっていますので、県内で見ると負債は低く抑えられています。

## 4 行政サービスは効率的に提供されているか？（効率性）

地方自治法において、「地方公共団体は、その事務を処理するに当たっては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最小の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない」とされています。行政コスト計算書は、地方公共団体の経常的な行政活動に係る人件費や物件費などの費用をフルコストとして表示しているため、それらの数値を用いて行財政の効率化を表す指標を算定することができます。

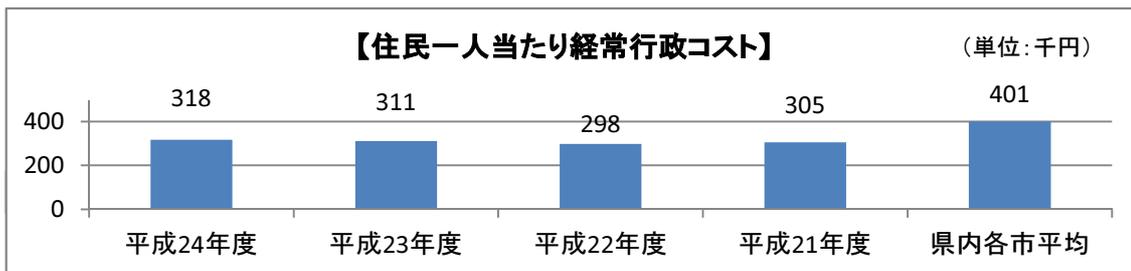
### (1) 住民一人当たり経常行政コスト

行政コスト計算書から住民一人当たりの経常行政コストを算出することによって、地方公共団体の経常的な行政活動の効率性を測定することができ、他団体との比較が可能となります。

$$\text{住民一人当たり経常行政コスト} = \text{経常行政コスト} \div \text{住民基本台帳人口}$$

【住民一人当たり経常行政コストの経年比較】 (単位:千円)

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
経常行政コスト	26,348,050	25,748,607	24,811,132	25,500,184
住民一人当たり経常行政コスト	318	311	298	305



本市の「住民一人当たり経常行政コスト」は31万8千円で、平成21年度からほぼ横ばいで推移しています。

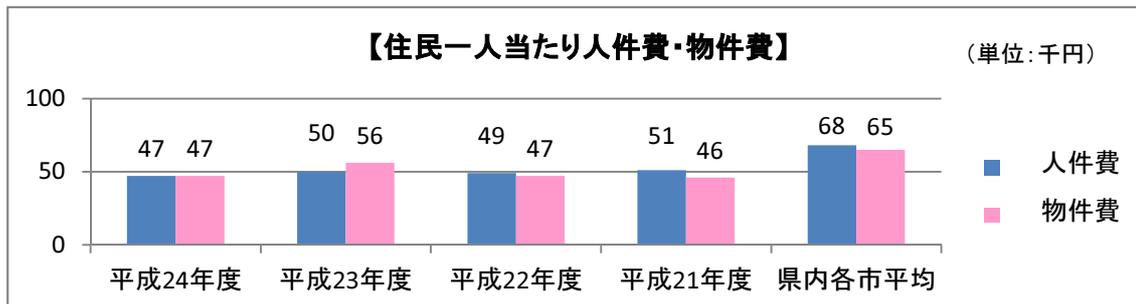
県内各市平均40万1千円と比較すると8万3千円低くなっていますので、県内でみると経常的な行政活動に係る費用を低く抑えて行政運営していると言えます。

### (2) 住民一人当たり人件費・物件費

$$\text{住民一人当たり人件費・物件費} = \text{人件費・物件費} \div \text{住民基本台帳人口}$$

【住民一人当たりの人件費・物件費の経年比較】 (単位:千円)

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
住民一人当たり人件費	47	50	49	51
住民一人当たり物件費	47	56	47	46



住民一人当たり経常行政コストを人件費・物件費に着目してみると、住民一人当たり人件費は4万7千円で、平成21年度と比較して少なくなっていますが、住民一人当たり物件費は4万7千円で、平成21年度と比較して1千円増加しています。

当市の住民一人当たり人件費・物件費は、県内各市平均と比較すると低くなっていますので、人件費・物件費を抑えて効率的な運営を行ってきたことが分かります。

## 5 資産形成を行う余裕はどのくらいあるのか？（弾力性）

財政の弾力性については、一般的に経常収支比率などが用いられますが、財務書類においても財政の弾力性を分析することができます。

### (1) 行政コスト対税収等比率

税収などの一般財源等に対する純経常行政コストの比率をみることによって、当該年度の税収等のうち資産形成を伴わない純経常行政コストにどれくらい費消されたのかが分かります。この比率が100%に近づくほど資産形成の余裕度が低いと言え、さらに100%を上回ると、過去から蓄積した資産が取り崩されたことを表します。

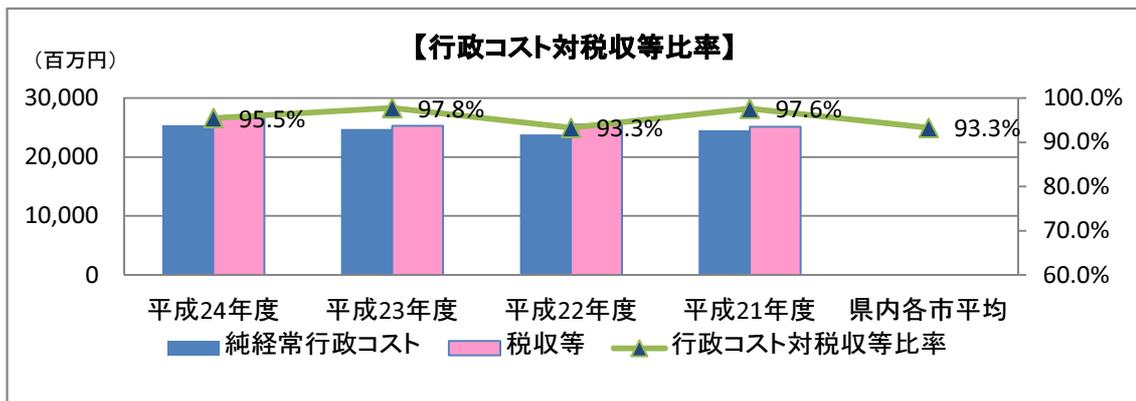
$$\text{行政コスト対税収等比率} = \text{純経常行政コスト} \div \text{税収等}$$

※税収等：「一般財源」「補助金等受入（その他一般財源等）」「減価償却による財源増（公共資産等整備国県補助金等）」に臨時財政対策債の当年度発行額等を加えた額

#### 【行政コスト対税収等比率の経年比較】

（単位：千円）

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
純経常行政コスト A	25,392,606	24,734,922	23,825,131	24,536,138
税 収 等 B	26,577,952	25,300,962	25,535,550	25,149,373
行政コスト対税収等比率 A/B	<b>95.5%</b>	<b>97.8%</b>	<b>93.3%</b>	<b>97.6%</b>



本市の「行政コスト対税収等比率」は95.5%で、平成21年度からほぼ横ばいで推移しています。平成19年度は100%を上回っており（比率110.0%）、過去から蓄積された資産を取り崩して純経常行政コストに費消されていたこととなりますが、平成20年度からは100%を下回り、資産形成を行うにあたって税収等で賄える余裕ができたこととなります。

県内各市平均93.3%と比較して同程度となっており、県内では、行政コスト対税収等比率は標準的な水準となっていますが、資産形成の余裕度の観点からは、今後も経常行政コストを抑えていく必要があります。

## 6 普通会計財務書類4表による分析結果の総括

財務書類4表を用いた各種指標の経年比較の分析結果を簡単に表すと下表のようになります。傾向欄の「😊」は年々改善傾向、「😞」は年々悪化傾向、「😐」は横ばい傾向を表します。

	指 標	傾 向
資産 形成度	住民一人当たり資産額（↑）	😊
	歳入額対資産比率（→）	😊
	資産老朽化比率（↑）	😞
世代間 公平性	純資産比率（↓）	😞
	将来世代負担比率（↑）	😞
健全性	住民一人当たり負債額（↑）	😞
効率性	住民一人当たり経常行政コスト（→）	😊
	住民一人当たり人件費・物件費（↓）	😊
弾力性	行政コスト対税収等比率（↓）	😊

住民一人当たり資産額は県内各市平均より低い状況ですが、歳入額対資産比率は県内各市平均と同程度であることから公共資産などの資産形成度の観点では標準的な水準と言えます。

一方、住民一人当たり負債額は県内各市平均より低く抑えられていますが、合併後の学校や道路などの社会資本整備の財源として地方債を発行しているため年々上昇傾向にあります。これに伴って、将来世代負担比率も上昇傾向が続く可能性があるため、今後も引き続き資産形成における将来世代と現世代との負担のバランスが適切に保たれるよう、年々増加傾向にある地方債残高の推移を注視していかなければなりません。

行財政の効率化を表す住民一人当たり経常行政コストは県内各市平均より低い状況であることから、経常的な行政活動に係る費用を低く抑えて行政運営を行ってきたことが分かります。また、行政コスト対税収等比率は県内各市平均と同程度で標準的な水準と言えますが、資産形成の余裕度の観点からは、今後も経常行政コストを抑えて効率的な行政運営を行う必要があります。

## 第2章 連結財務書類4表について

### I 作成に関する基本的事項

#### 1 連結財務書類とは

連結財務書類とは、普通会計のほか、地方公共団体を構成するその他の特別会計や、地方公共団体と連携協力して行政サービスを実施している関係団体や法人を一つの行政サービス実施主体とみなして作成する財務書類です。この連結財務書類により、地方公共団体全体の資産・負債、行政コスト、収益等の情報に関する財務活動を分析することができます。

#### 2 作成モデル及び作成財務書類

普通会計と同様に、「新地方公会計制度研究会報告書」の「総務省方式改訂モデル」に基づき、連結貸借対照表、連結行政コスト計算書、連結純資産変動計算書及び連結資金収支計算書の財務書類4表を作成しています。

#### 3 連結対象法人等の範囲と連結の方法

##### (1) 普通会計

##### (2) 公営事業会計

公営企業会計を含むすべての公営事業会計が連結対象となります。

地方公営企業法を適用している水道事業会計については、地方公営企業法施行規則等に基づいて作成した決算書及び決算統計を活用して作成しています。

また、その他の事業会計については、普通会計の財務書類作成方法に準じて作成しています。

##### (3) 一部事務組合・広域連合

市が加入するすべての一部事務組合及び広域連合が連結対象となります。

普通会計の財務書類作成方法に準じて作成した各団体の財務書類を、当該年度の経費負担割合に応じた比例連結の方法により連結しています。

##### (4) 地方三公社

特別の法律に基づき地方公共団体が出資して設立する地方三公社は連結対象となりますが、複数の地方公共団体が出資して設立した地方三公社は、原則的に出資割合等から業務運営に実質的に主導的な立場を確保している団体が全部連結を行うこととされています。

本市が出資している「県央土地開発公社」は、三条市、燕市のほか複数の地方公共団体が出資して設立したものであるため、出資比率等から三条市が全部連結することとなり、本市の連結対象とはなりません。

**(5) 第三セクター等**

市が出資している第三セクター等については、原則的に出資比率が50%以上の場合は連結対象となります。

本市においては、「(財) 燕西蒲勤労者福祉サービスセンター」及び「(財) 吉田スポーツ振興事業団」が出資比率50%以上のため連結対象とし、各法人の会計基準に基づき作成された決算書を活用して作成しています。

区 分		連結対象	会計名または団体名	経費負担割合・出資比率	連結方法	
連結	市全体	普通会計	普通会計		全部連結	
		公営事業会計	○	水道事業会計		
			○	国民健康保険特別会計		
			○	介護保険事業特別会計		
			○	公共下水道事業特別会計		
			○	企業団地造成事業特別会計		
	一部事務組合・広域連合	○	西蒲原福祉事務組合	24.2%	比例連結	
		○	新潟県三条・燕総合グラウンド施設組合	45.8%		
		○	三条・燕・西蒲・南蒲広域養護老人ホーム施設組合	25.5%		
		○	燕・弥彦総合事務組合	90.7%		
		○	新潟県市町村総合事務組合	3.4%		
		○	新潟県後期高齢者医療広域連合	3.1%		
	地方三公社	×	県央土地開発公社	33.5%		
	第三セクター	×	(財) 燕三条地場産業振興センター	22.7%	全部連結	
○		(財) 燕西蒲勤労者福祉サービスセンター	81.3%			
○		(財) 吉田スポーツ振興事業団	100.0%			
×		(株) 吉田環境衛生公社	41.7%			

※「連結対象」: 連結財務書類を作成するにあたって連結対象としたものを「○」、連結対象としなかったものを「×」で表示

**4 作成基準日**

普通会計と同様に、平成24年度末（平成25年3月31日）を基準日として作成しています。なお、平成24年度分の出納整理期間（平成25年4月1日から平成25年5月31日まで）における出納については、基準日までに終了したものと取り扱っています。

**5 純計処理**

市が連結の対象となる会計・団体・法人をひとつの行政サービスの主体とみなして連結財務書類を作成することから、連結対象会計等で行われている資金の繰入れ操出し、補助金の支給受入など内部取引を相殺消去しています。

## II 連結貸借対照表

## 1 燕市の連結貸借対照表

## 貸借対照表(普通会計ベース、市全体ベース、連結ベース)

(平成25年3月31日現在)

(単位：千円、倍)

	普通会計	市全体	連結	連単比較			連単倍率		
				市全体－ 普通会計 B-A	連結－ 市全体 C-B	連結－ 普通会計 C-A	市全体／ 普通会計 B/A	連結／ 市全体 C/B	連結／ 普通会計 C/A
	A	B	C						
<b>[資産の部]</b>									
1. 公共資産	133,261,423	181,792,860	194,124,897	48,531,437	12,332,037	60,863,474	1.36	1.07	1.46
(1) 有形固定資産	132,781,869	181,312,231	193,644,268	48,530,362	12,332,037	60,862,399	1.37	1.07	1.46
①生活インフラ・国土保全	66,733,632	102,446,326	102,446,326	35,712,694	0	35,712,694	1.54	1.00	1.54
②教育	40,113,660	40,113,660	40,155,479	0	41,819	41,819	1.00	1.00	1.00
③福祉	5,959,341	5,959,341	6,089,820	0	130,479	130,479	1.00	1.02	1.02
④環境衛生	1,522,605	14,340,273	24,208,073	12,817,668	9,867,800	22,685,468	9.42	1.69	15.90
⑤産業振興	6,719,025	6,719,025	6,719,091	0	66	66	1.00	1.00	1.00
⑥消防	1,343,843	1,343,843	3,449,352	0	2,105,509	2,105,509	1.00	2.57	2.57
⑦総務	10,389,763	10,389,763	10,576,127	0	186,364	186,364	1.00	1.02	1.02
⑧収益事業	0	0	0	0	0	0	-	-	-
⑨その他	0	0	0	0	0	0	-	-	-
(2) 無形固定資産	0	1,075	1,075	1,075	0	1,075	-	-	-
(3) 売却可能資産	479,554	479,554	479,554	0	0	0	1.00	1.00	1.00
2. 投資等	3,287,287	3,641,103	6,892,110	353,816	3,251,007	3,604,823	1.11	1.89	2.10
(1) 投資及び出資金	245,607	247,044	194,119	1,437	△ 52,925	△ 51,488	1.01	0.79	0.79
(2) 貸付金	438,301	438,301	438,301	0	0	0	1.00	1.00	1.00
(3) 基金等	2,191,773	2,214,624	5,518,397	22,851	3,303,773	3,326,624	1.01	2.49	2.52
(4) 長期延滞債権	536,144	949,296	949,324	413,152	28	413,180	1.77	1.00	1.77
(5) その他	0	0	131	0	131	131	-	-	-
(6) 回収不能見込額	△ 124,538	△ 208,162	△ 208,162	△ 83,624	0	△ 83,624	1.67	1.00	1.67
3. 流動資産	5,188,194	7,458,976	7,884,949	2,270,782	425,973	2,696,755	1.44	1.06	1.52
(1) 資金	5,071,758	7,110,028	7,534,013	2,038,270	423,985	2,462,255	1.40	1.06	1.49
(2) 未収金	150,736	387,559	388,476	236,823	917	237,740	2.57	1.00	2.58
(3) 販売用不動産	0	0	0	0	0	0	-	-	-
(4) その他	0	23,698	24,769	23,698	1,071	24,769	-	-	-
(5) 回収不能見込額	△ 34,300	△ 62,309	△ 62,309	△ 28,009	0	△ 28,009	1.82	1.00	1.82
4. 繰延勘定	0	0	0	0	0	0	-	-	-
<b>資産合計</b>	<b>141,736,904</b>	<b>192,892,939</b>	<b>208,901,956</b>	<b>51,156,035</b>	<b>16,009,017</b>	<b>67,165,052</b>	<b>1.36</b>	<b>1.08</b>	<b>1.47</b>
<b>[負債の部]</b>									
1. 固定負債	45,814,619	70,170,541	72,744,305	24,355,922	2,573,764	26,929,686	1.53	1.04	1.59
(1) 地方公共団体	39,337,299	62,849,643	62,851,429	23,512,344	1,786	23,514,130	1.60	1.00	1.60
①普通会計地方債	39,337,299	39,337,299	39,339,085	0	1,786	1,786	1.00	1.00	1.00
②公営事業地方債	0	23,512,344	23,512,344	23,512,344	0	23,512,344	-	-	-
地方公共団体計	39,337,299	62,849,643	62,851,429	23,512,344	1,786	23,514,130	1.60	1.00	1.60
(2) 関係団体	0	0	1,167,045	0	1,167,045	1,167,045	-	-	-
①一部事務組合・広域連合地方債	0	0	1,167,045	0	1,167,045	1,167,045	-	-	-
②地方三公社長期借入金	0	0	0	0	0	0	-	-	-
③第三セクター等長期借入金	0	0	0	0	0	0	-	-	-
(3) 長期未払金	62,336	62,336	62,336	0	0	0	1.00	1.00	1.00
(4) 引当金	6,414,984	7,258,562	8,663,495	843,578	1,404,933	2,248,511	1.13	1.19	1.35
(うち 退職手当等引当金)	6,230,175	7,020,171	8,425,104	789,996	1,404,933	2,194,929	1.13	1.20	1.35
(うち その他の引当金)	184,809	238,391	238,391	53,582	0	53,582	1.29	1.00	1.29
(5) その他	0	0	0	0	0	0	-	-	-
(うち 他会計借入金)	0	0	0	0	0	0	-	-	-
2. 流動負債	3,146,024	4,552,914	4,766,463	1,406,890	213,549	1,620,439	1.45	1.05	1.52
(1) 翌年度償還予定額	2,900,556	4,073,611	4,196,999	1,173,055	123,388	1,296,443	1.40	1.03	1.45
①地方公共団体	2,900,556	4,073,611	4,073,611	1,173,055	0	1,173,055	1.40	1.00	1.40
②関係団体	0	0	123,388	0	123,388	123,388	-	-	-
(2) 短期借入金	0	0	0	0	0	0	-	-	-
(3) 未払金	10,033	206,811	212,740	196,778	5,929	202,707	20.61	1.03	21.20
(4) 翌年度支払予定退職手当	0	0	0	0	0	0	-	-	-
(5) 賞与引当金	235,435	262,417	337,526	26,982	75,109	102,091	1.11	1.29	1.43
(6) その他	0	10,075	19,198	10,075	9,123	19,198	-	-	-
<b>負債合計</b>	<b>48,960,643</b>	<b>74,723,455</b>	<b>77,510,768</b>	<b>25,762,812</b>	<b>2,787,313</b>	<b>28,550,125</b>	<b>1.53</b>	<b>1.04</b>	<b>1.58</b>
<b>[純資産の部]</b>									
1. 公共資産等整備国県補助金等	19,787,364	30,713,623	32,634,522	10,926,259	1,920,899	12,847,158	1.55	1.06	1.65
2. 公共資産等整備一般財源等	89,723,438	104,493,138	114,073,788	14,769,700	9,580,650	24,350,350	1.16	1.09	1.27
3. 他団体及び民間出資分	0	0	12,200	0	12,200	12,200	-	-	-
4. その他一般財源等	△ 16,851,547	△ 17,330,663	△ 15,594,212	△ 479,116	1,736,451	1,257,335	1.03	0.90	0.93
5. 資産評価差額	117,006	293,386	264,890	176,380	△ 28,496	147,884	2.51	0.90	2.26
<b>純資産合計</b>	<b>92,776,261</b>	<b>118,169,484</b>	<b>131,391,188</b>	<b>25,393,223</b>	<b>13,221,704</b>	<b>38,614,927</b>	<b>1.27</b>	<b>1.11</b>	<b>1.42</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>141,736,904</b>	<b>192,892,939</b>	<b>208,901,956</b>	<b>51,156,035</b>	<b>16,009,017</b>	<b>67,165,052</b>	<b>1.36</b>	<b>1.08</b>	<b>1.47</b>

## 2 連結貸借対照表による燕市の財政状況

### (1) 資産

資産合計を見てみると、普通会計に公営事業会計を含めた市全体ベースでは1,928億9,294万円となりました。普通会計との差額は511億5,604万円で連単倍率は1.36倍です。この差額は主に、水道事業会計における有形固定資産128億3,823万円と公共下水道事業特別会計における有形固定資産357億1,269万円が加算されていることによるものです。

また、関係団体を含めた連結ベースでは資産合計2,089億196万円となりました。市全体ベースとの差額は160億902万円で普通会計との連単倍率は1.47倍です。この差額は主に、燕・弥彦総合事務組合における有形固定資産119億6,505万円など一部事務組合等の資産が加算されていることによるものです。

#### ① 有形固定資産

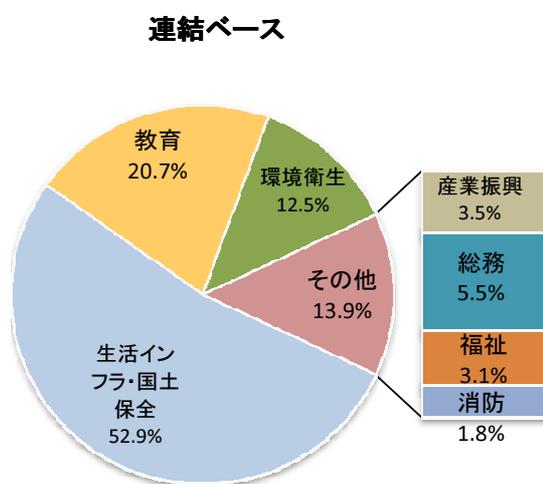
有形固定資産を行政目的別構成割合で見ると、普通会計で構成割合1.0%の消防と同1.1%の環境衛生が、連結ベースでそれぞれ1.8%と12.5%となりました。これは主に、水道事業会計と燕・弥彦総合事務組合の有形固定資産が連結ベースで加算されていることによるものです。

#### 【行政目的別有形固定資産の状況】

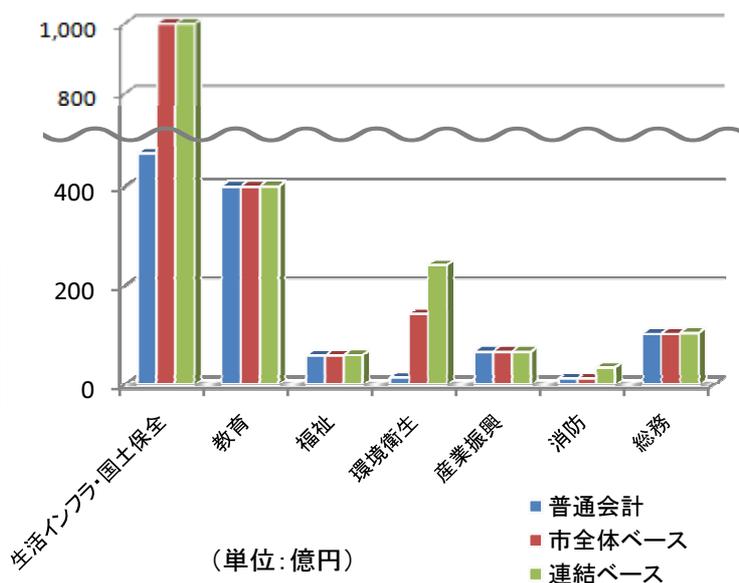
(単位:千円、%)

行政目的	普通会計	市全体	連結	構成割合	連結-普通会計
生活インフラ・国土保全	66,733,632	102,446,326	102,446,326	52.9	35,712,694
教育	40,113,660	40,113,660	40,155,479	20.7	41,819
福祉	5,959,341	5,959,341	6,089,820	3.1	130,479
環境衛生	1,522,605	14,340,273	24,208,073	12.5	22,685,468
産業振興	6,719,025	6,719,025	6,719,091	3.5	66
消防	1,343,843	1,343,843	3,449,352	1.8	2,105,509
総務	10,389,763	10,389,763	10,576,127	5.5	186,364
合計	132,781,869	181,312,231	193,644,268	100.0	507,738,368

#### 【有形固定資産の行政目的別構成割合】



#### 【有形固定資産の行政目的別構成の状況】



## (2) 負債

一方、負債合計を見てみると、市全体ベースでは747億2,346万円で、普通会計との差額は257億6,281万円、連単倍率は1.53倍となりました。この差額は主に、水道事業会計における翌年度償還予定を含む地方債31億2,672万円と公共下水道事業特別会計における同215億5,868万円が計上されていることによるものです。

また、関係団体を含めた連結ベースでは775億1,077万円で、市全体ベースとの差額は27億8,731万円、普通会計との連単倍率は1.58倍となりました。この差額は主に、燕・弥彦総合事務組合における翌年度償還予定を含む地方債12億4,251万円と退職手当引当金12億9,367万円など一部事務組合等の負債が計上されていることによるものです。

### ① 地方債

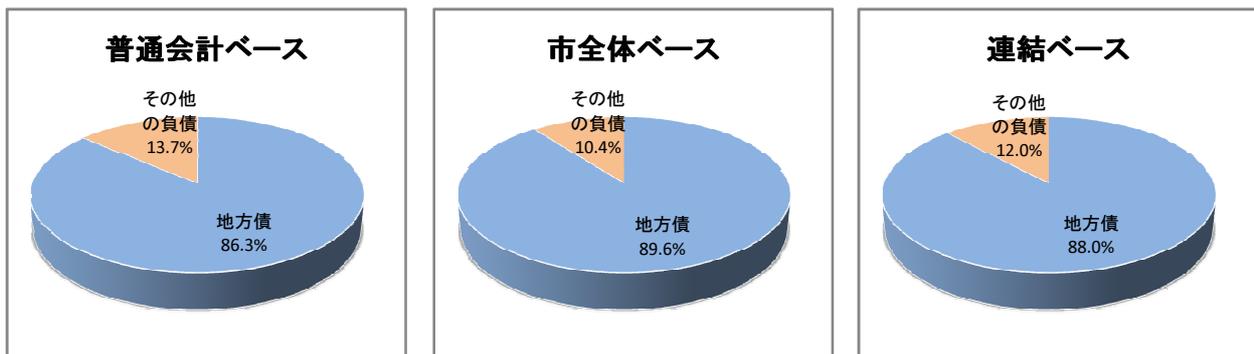
固定負債、流動負債に計上されている地方債の合計を負債合計の割合で見ると、普通会計ベースでの86.3%から連結ベースで88.0%となり、割合が連結ベースで増えたことがわかります。また、普通会計ベースと連結ベースの連単倍率を見てみると、負債合計が1.58倍であるのに対し、地方債合計で1.62倍と上昇しています。これは主に、水道事業会計と公共下水道事業特別会計において、負債合計に占める地方債の割合が高くなっていることによるものです。

#### 【地方債の状況】

(単位:千円、倍)

項 目	普通会計	市 全 体	連 結	連結-普通会計	連単倍率
負 債 合 計	48,960,643	74,723,455	77,510,768	28,550,125	1.58
翌年度償還予定	2,900,556	4,073,611	4,196,999	1,296,443	1.45
翌々年度以降償還予定	39,337,299	62,849,643	64,018,474	24,681,175	1.63
地 方 債 合 計	42,237,855	66,923,254	68,215,473	25,977,618	1.62
地方債合計/負債合計	86.3	89.6	88.0		

#### 【負債合計に占める地方債の割合】



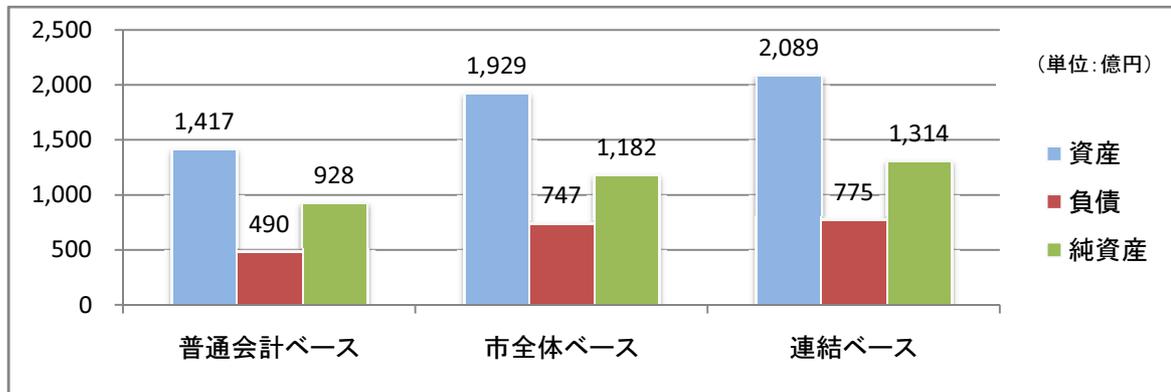
## (3) 資産、負債、純資産

資産、負債、純資産の連単倍率を見てみると、資産の連単倍率が1.47倍であるのに対し、負債の連単倍率は1.58倍で、資産の連単倍率より高くなっています。また、純資産の連単倍率は1.42倍で資産の連単倍率より低くなっています。このことから、普通会計ベースでは分からなかった公営事業会計での負債が決して少なくないことがわかります。

【資産、負債、純資産の状況】

(単位:千円、倍)

項目	普通会計	市全体	連結	連結-普通会計	連単倍率
資産	141,736,904	192,892,939	208,901,956	67,165,052	1.47
負債	48,960,643	74,723,455	77,510,768	28,550,125	1.58
純資産	92,776,261	118,169,484	131,391,188	38,614,927	1.42



(4) 連結貸借対照表数値を活用した分析

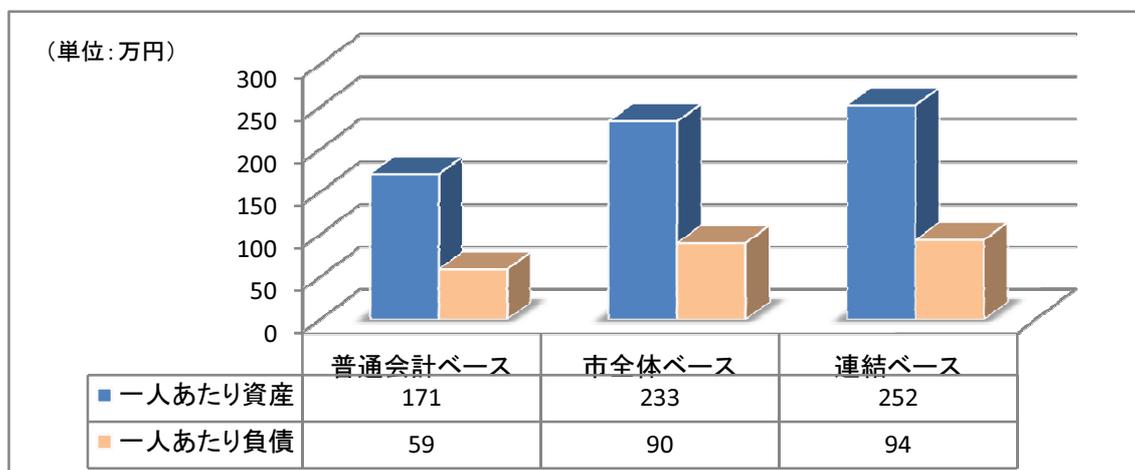
① 一人あたり資産及び負債

一人あたり資産及び負債を連結ベースで見ると、資産合計2,089億196万円で住民一人あたりの資産は252万円、負債合計775億1,077万円で住民一人あたりの負債は94万円となりました。普通会計ベースと比較して、連結ベースでは資産合計で81万円、負債合計で34万円の増加となりました。

【一人あたり資産及び負債】

(単位:千円)

項目	普通会計	市全体	連結
資産合計	141,736,904	192,892,939	208,901,956
一人あたり資産	1,710	2,328	2,521
負債合計	48,960,643	74,723,455	77,510,768
一人あたり負債	591	902	935
年度末住民基本台帳人口(人)	82,867		



## ② 社会資本形成の世代間負担比率

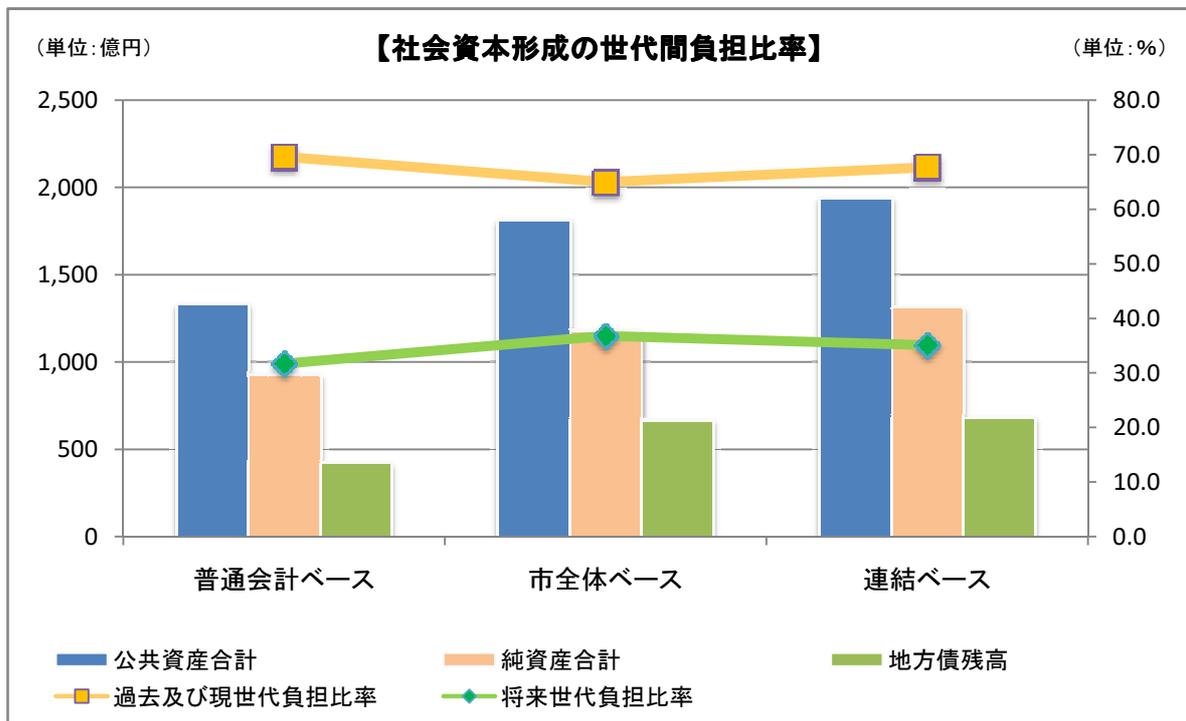
社会資本形成の世代間負担比率を連結ベースで見ると、社会資本形成の過去及び現世代負担比率は67.7%で、普通会計ベースの同69.6%と比べて1.9%の減となりました。また、連結ベースの社会資本形成の将来世代負担比率は35.1%で、普通会計ベースの同31.7%と比べて3.4%の増となり、連結ベースでは将来世代が返済しなければならない債務の割合が高くなったことが分かります。これは主に、水道事業会計と公共下水道事業特別会計における地方債残高によって連結ベースでの負債の割合が高くなっていることによるものです。下水道事業等での社会資本整備には多額の資金が必要ですが、将来の使用料収入で資金回収することを前提に市債を活用することになっていることに加え、市債の償還年限が普通会計より長くなっていることが原因と考えられます。

### 【社会資本形成の世代間負担比率】

(単位:千円、%)

項 目	普通会計	市全体	連 結
公共資産合計 A	133,261,423	181,792,860	194,124,897
純資産合計 B	92,776,261	118,169,484	131,391,188
地方債残高 C	42,237,855	66,923,254	68,215,473
過去及び現世代負担比率 B/A	<b>69.6</b>	<b>65.0</b>	<b>67.7</b>
将来世代負担比率 C/A	<b>31.7</b>	<b>36.8</b>	<b>35.1</b>

※ここでの「将来世代負担比率」は、普通会計での分析に使用した「将来世代負担比率」と算式が異なっているため一致しません。



## III 連結行政コスト計算書

## 1 燕市の連結行政コスト計算書

## 行政コスト計算書(普通会計ベース、市全体ベース、連結ベース)

〔自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日〕

(単位：千円、倍)

	普通会計	市全体	連 結	連単比較			連単倍率		
				市全体一 普通会計	連結一 市全体	連結一 普通会計	市全体/ 普通会計	連結/ 市全体	連結/ 普通会計
				A	B	C	B-A	C-B	C-A
経常行政コスト	26,348,050	42,176,801	47,757,324	15,828,751	5,580,523	21,409,274	1.60	1.13	1.81
人件費	3,916,026	4,261,918	5,465,917	345,892	1,203,999	1,549,891	1.09	1.28	1.40
退職手当引当金繰入等	318,323	469,516	△ 105,539	151,193	△ 575,055	△ 423,862	1.47	-0.22	-0.33
賞与引当金繰入等	235,436	262,418	337,527	26,982	75,109	102,091	1.11	1.29	1.43
物件費	3,907,832	4,821,355	5,559,205	913,523	737,850	1,651,373	1.23	1.15	1.42
維持補修費	294,549	392,843	462,716	98,294	69,873	168,167	1.33	1.18	1.57
減価償却費	3,311,095	4,777,817	5,431,772	1,466,722	653,955	2,120,677	1.44	1.14	1.64
社会保障給付	4,670,917	16,543,315	23,945,747	11,872,398	7,402,432	19,274,830	3.54	1.45	5.13
補助金等	4,830,592	7,988,999	4,572,583	3,158,407	△ 3,416,416	△ 258,009	1.65	0.57	0.95
他会計等への支出額	3,552,344	619,325	△ 25,537	△ 2,933,019	△ 644,862	△ 3,577,881	-	-	-
他団体への公共資産整備補助金等	845,495	891,982	891,982	46,487	0	46,487	1.05	1.00	1.05
支払利息	420,812	956,237	968,535	535,425	12,298	547,723	2.27	1.01	2.30
回収不能見込計上額	14,092	36,336	36,336	22,244	0	22,244	2.58	1.00	2.58
その他行政コスト	30,537	154,740	216,080	124,203	61,340	185,543	5.07	1.40	7.08
経常収益	955,444	12,263,442	16,398,171	11,307,998	4,134,729	15,442,727	12.84	1.34	17.16
使用料・手数料	755,008	755,008	974,358	0	219,350	219,350	1.00	1.29	1.29
分担金・負担金・寄附金	200,436	6,043,948	9,805,302	5,843,512	3,761,354	9,604,866	30.15	1.62	48.92
保険料	0	3,676,074	3,701,564	3,676,074	25,490	3,701,564	-	-	-
事業収益	0	1,729,794	1,798,286	1,729,794	68,492	1,798,286	-	-	-
その他特定行政サービス収入	0	58,618	118,661	58,618	60,043	118,661	-	-	-
他会計補助金等	0	0	0	0	0	0	-	-	-
純行政コスト	25,392,606	29,913,359	31,359,153	4,520,753	1,445,794	5,966,547	1.18	1.05	1.23

(単位：千円、倍)

	普通会計	市全体	連 結	連単比較			連単倍率		
				市全体一 普通会計	連結一 市全体	連結一 普通会計	市全体/ 普通会計	連結/ 市全体	連結/ 普通会計
				A	B	C	B-A	C-B	C-A
経常行政コスト	26,348,050	42,176,801	47,757,324	15,828,751	5,580,523	21,409,274	1.60	1.13	1.81
1. 人に係るコスト	4,469,785	4,993,852	5,697,905	524,067	704,053	1,228,120	1.12	1.14	1.27
2. 物に係るコスト	7,513,476	9,992,015	11,453,693	2,478,539	1,461,678	3,940,217	1.33	1.15	1.52
3. 移転支出的なコスト	13,899,348	26,043,621	29,384,775	12,144,273	3,341,154	15,485,427	1.87	1.13	2.11
4. その他のコスト	465,441	1,147,313	1,220,951	681,872	73,638	755,510	2.47	1.06	2.62
経常収益	955,444	12,263,442	16,398,171	11,307,998	4,134,729	15,442,727	12.84	1.34	17.16
使用料・手数料	755,008	755,008	974,358	0	219,350	219,350	1.00	1.29	1.29
分担金・負担金・寄附金	200,436	6,043,948	9,805,302	5,843,512	3,761,354	9,604,866	30.15	1.62	48.92
保険料	0	3,676,074	3,701,564	3,676,074	25,490	3,701,564	-	-	-
事業収益	0	1,729,794	1,798,286	1,729,794	68,492	1,798,286	-	-	-
その他特定行政サービス収入	0	58,618	118,661	58,618	60,043	118,661	-	-	-
他会計補助金等	0	0	0	0	0	0	-	-	-
純行政コスト	25,392,606	29,913,359	31,359,153	4,520,753	1,445,794	5,966,547	1.18	1.05	1.23

## 2 連結行政コスト計算書による燕市の財政状況

### (1) 普通会計行政コスト計算書と連結行政コスト計算書の比較

行政コスト計算書を普通会計ベースと連結ベースで比較すると、経常行政コストは普通会計ベースで263億4,805万円であるのに対し、連結ベースでは477億5,732万円で、差額は214億927万円、連単倍率は1.81倍となりました。

コストの内訳で見ると、人に係るコスト（連単倍率1.27倍）、物に係るコスト（同1.52倍）と比較して、移転支的コスト（同2.11倍）とその他のコスト（同2.62倍）で、連結ベースでの行政コストの増加が顕著となっています。これは主に、連結ベースの移転支的コストには、国民健康保険特別会計、介護保険事業特別会計などの福祉目的事業での社会保障給付に係るコストが多額に計上されていること、また、その他のコストには、水道事業会計や公共下水道事業特別会計の地方債に係る支払利息が計上されていることによるものです。

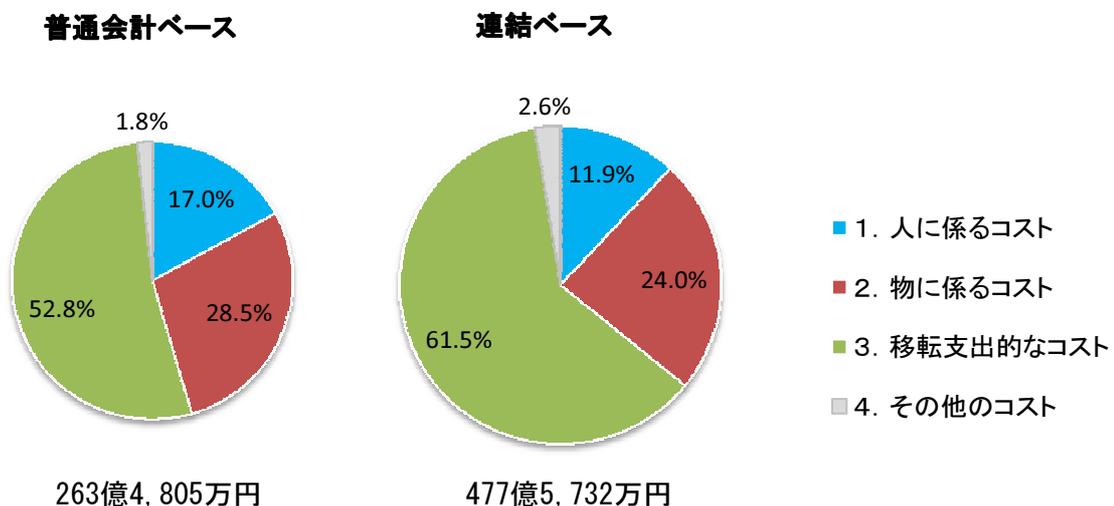
一方、経常収益は、普通会計ベースで9億5,544万円に対し、連結ベースで163億9,817万円で、差額は154億4,273万円、連単倍率は17.16倍となりました。これは主に、連結ベースの経常収益には、国民健康保険特別会計、介護保険事業特別会計などの福祉目的事業での社会保障給付に係る保険料が多額に計上されていること、そして、水道事業会計において水道料金が事業収益として計上されていることによるものです。

#### 【行政コスト計算書の連単比較】

(単位:千円、%)

	普通会計	市全体	連結	構成割合	連結-普通会計
1. 人に係るコスト	4,469,785	4,993,852	5,697,905	11.9	1,228,120
2. 物に係るコスト	7,513,476	9,992,015	11,453,693	24.0	3,940,217
3. 移転支的コスト	13,899,348	26,043,621	29,384,775	61.5	15,485,427
4. その他のコスト	465,441	1,147,313	1,220,951	2.6	755,510
経常行政コスト	26,348,050	42,176,801	47,757,324	100.0	21,409,274
経常収益	955,444	12,263,442	16,398,171		15,442,727
純行政コスト	25,392,606	29,913,359	31,359,153		5,966,547

#### 【経常行政コストの状況】



## IV 連結純資産変動計算書

## 1 燕市の連結純資産変動計算書

## 純資産変動計算書（普通会計ベース、市全体ベース、連結ベース）

〔自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日〕

(単位：千円、倍)

	普通会計	市全体	連結	連単比較			連単倍率		
				市全体－ 普通会計	連結－ 市全体	連結－ 普通会計	市全体／ 普通会計	連結／ 市全体	連結／ 普通会計
				A	B	C	B-A	C-B	C-A
期首純資産残高	92,127,685	116,850,520	127,372,367	24,722,835	10,521,847	35,244,682	1.27	1.09	1.38
純経常行政コスト	△ 25,392,606	△ 29,913,359	△ 31,359,153	△ 4,520,753	△ 1,445,794	△ 5,966,547	1.18	1.05	1.23
一般財源									
地方税	10,333,958	10,333,958	10,333,958	0	0	0	1.00	1.00	1.00
地方交付税	8,407,128	8,407,128	8,407,128	0	0	0	1.00	1.00	1.00
その他行政コスト充当財源	1,688,313	1,688,313	1,769,559	0	81,246	81,246	1.00	1.05	1.05
補助金等受入	5,423,116	10,562,360	14,526,603	5,139,244	3,964,243	9,103,487	1.95	1.38	2.68
臨時損益									
災害復旧事業費	△ 30,076	△ 30,076	△ 30,076	0	0	0	1.00	1.00	1.00
公共資産除売却損益	164,488	164,488	164,488	0	0	0	1.00	1.00	1.00
投資損失	0	0	0	0	0	0	-	-	-
収益事業純損失	0	0	0	0	0	0	-	-	-
減損損失	0	0	0	0	0	0	-	-	-
損失補償等引当金繰入等	24,823	24,823	24,823	0	0	0	1.00	1.00	1.00
出資の受入・新規設立	0	0	0	0	0	0	-	-	-
資産評価替えによる変動額	28,439	32,436	32,436	3,997	0	3,997	1.14	1.00	1.14
無償受贈資産受入	0	7,491	7,491	7,491	0	7,491	-	-	-
その他	993	41,402	141,564	40,409	100,162	140,571			
期末純資産残高	92,776,261	118,169,484	131,391,188	25,393,223	13,221,704	38,614,927	1.27	1.11	1.42

## 2 連結純資産変動計算書による燕市の財政状況

### (1) 普通会計純資産変動計算書と連結純資産変動計算書の比較

純資産変動計算書を普通会計ベースと連結ベースで比較すると、普通会計ベースでは、期首純資産残高921億2,769万円、期末純資産残高927億7,626万円、差引増減額6億4,858万円、連結ベースでは、期首純資産残高1,273億7,237万円、期末純資産残高1,313億9,119万円、差引増減額40億1,882万円となりました。

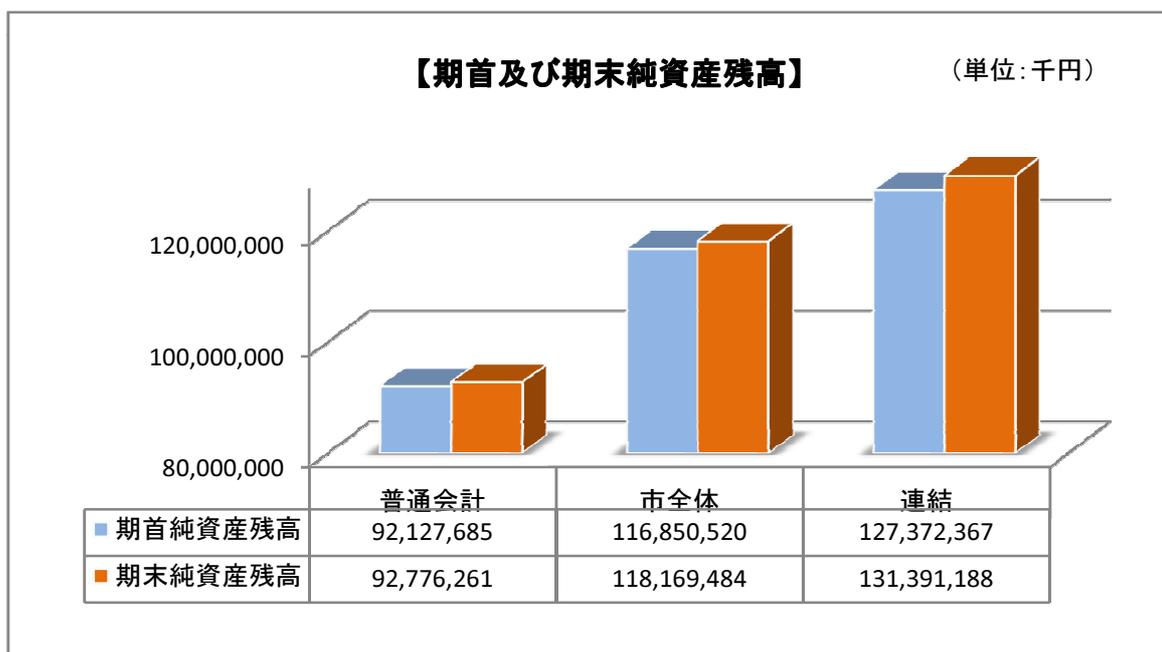
#### 【純資産変動計算書の連単比較】

(単位:千円、倍)

	普通会計	市全体	連結	連結-普通会計	連単倍率
期首純資産残高	92,127,685	116,850,520	127,372,367	35,244,682	1.38
純経常行政コスト	△ 25,392,606	△ 29,913,359	△ 31,359,153	△ 5,966,547	1.23
一般財源	20,429,399	20,429,399	20,510,645	81,246	
補助金等受入	5,423,116	10,562,360	14,526,603	9,103,487	
臨時損益	159,235	159,235	159,235	0	
その他	29,432	81,329	181,491	152,059	
期末純資産残高	92,776,261	118,169,484	131,391,188	38,614,927	1.42
純資産残高増減額	648,576	1,318,964	4,018,821	3,370,245	

#### 【期首及び期末純資産残高】

(単位:千円)



# V 連結資金収支計算書

## 1 燕市の連結資金収支計算書

### 資金収支計算書（普通会計ベース、市全体ベース、連結ベース）

〔自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日〕

（単位：千円、倍）

	普通会計	市全体	連結	連単比較			連単倍率		
				市全体－ 普通会計	連結－ 市全体	連結－ 普通会計	市全体／ 普通会計	連結／ 市全体	連結／ 普通会計
	A	B	C	B-A	C-B	C-A	B/A	C/B	C/A
[経常的収支の部]									
人件費	4,701,408	5,088,433	6,509,686	387,025	1,421,253	1,808,278	1.08	1.28	1.38
物件費	3,907,832	4,811,394	5,549,027	903,562	737,633	1,641,195	1.23	1.15	1.42
社会保障給付	4,670,917	16,543,315	23,945,748	11,872,398	7,402,433	19,274,831	3.54	1.45	5.13
補助金等	5,476,999	8,635,406	5,218,990	3,158,407	△ 3,416,416	△ 258,009	1.58	0.60	0.95
支払利息	420,812	956,237	968,535	535,425	12,298	547,723	2.27	1.01	2.30
他会計への事務費等充当財源繰出支出	1,793,587	0	0	△ 1,793,587	0	△ 1,793,587	-	-	-
その他支出	324,625	515,057	645,485	190,432	130,428	320,860	1.59	1.25	1.99
支出合計	21,296,180	36,549,842	42,837,471	15,253,662	6,287,629	21,541,291	1.72	1.17	2.01
地方税	10,293,146	10,293,146	10,293,146	0	0	0	1.00	1.00	1.00
地方交付税	8,407,128	8,407,128	8,407,128	0	0	0	1.00	1.00	1.00
国県補助金等	3,513,553	8,177,287	11,338,810	4,663,734	3,161,523	7,825,257	2.33	1.39	3.23
使用料・手数料	736,580	736,580	955,906	0	219,326	219,326	1.00	1.30	1.30
分担金・負担金・寄附金	161,880	5,906,536	10,338,192	5,744,656	4,431,656	10,176,312	36.49	1.75	63.86
保険料	0	3,654,597	3,680,087	3,654,597	25,490	3,680,087	-	-	-
事業収入	0	1,758,459	1,814,224	1,758,459	55,765	1,814,224	-	-	-
諸収入	103,042	149,895	238,833	46,853	88,938	135,791	1.45	1.59	2.32
地方債発行額	1,753,100	1,753,100	1,753,100	0	0	0	1.00	1.00	1.00
長期借入金借入額	0	0	0	0	0	0	-	-	-
短期借入金増加額	0	0	0	0	0	0	-	-	-
基金取崩額	237,273	237,273	336,354	0	99,081	99,081	1.00	1.42	1.42
他会計繰入金等	0	0	0	0	0	0	-	-	-
その他収入	1,461,763	1,468,351	1,529,318	6,588	60,967	67,555	1.00	1.04	1.05
収入合計	26,667,465	42,542,352	50,685,098	15,874,887	8,142,746	24,017,633	1.60	1.19	1.90
経常的収支額	5,371,285	5,992,510	7,847,627	621,225	1,855,117	2,476,342	1.12	1.31	1.46
[公共資産整備収支の部]									
公共資産整備支出	8,459,229	10,062,535	12,719,800	1,603,306	2,657,265	4,260,571	1.19	1.26	1.50
公共資産整備補助金等支出	845,495	886,365	886,365	40,870	0	40,870	1.05	1.00	1.05
他会計への建設費充当財源繰出支出	35,887	△ 2,367	△ 2,367	△ 38,254	0	△ 38,254	-	-	-
地方独立行政法人公共資産整備支出	0	0	0	0	0	0	-	-	-
一部事務組合・広域連合公共資産整備支出	0	0	0	0	0	0	-	-	-
地方三公社公共資産整備支出	0	0	0	0	0	0	-	-	-
第三セクター等公共資産整備支出	0	0	0	0	0	0	-	-	-
支出合計	9,340,611	10,946,533	13,603,798	1,605,922	2,657,265	4,263,187	1.17	1.24	1.46
国県補助金等	1,909,563	2,385,073	3,187,793	475,510	802,720	1,278,230	1.25	1.34	1.67
地方債発行額	6,275,200	6,999,300	7,270,925	724,100	271,625	995,725	1.12	1.04	1.16
長期借入金借入額	0	0	0	0	0	0	-	-	-
基金取崩額	57,151	57,151	57,151	0	0	0	1.00	1.00	1.00
他会計負担金等	0	0	0	0	0	0	-	-	-
その他収入	52,845	169,414	169,437	116,569	23	116,592	3.21	1.00	3.21
収入合計	8,294,759	9,610,938	10,685,306	1,316,179	1,074,368	2,390,547	1.16	1.11	1.29
公共資産整備収支額	△ 1,045,852	△ 1,335,595	△ 2,918,492	△ 289,743	△ 1,582,897	△ 1,872,640	1.28	2.19	2.79
[投資・財務的収支の部]									
投資及び出資金	620	620	620	0	0	0	1.00	1.00	1.00
貸付金	3,154,284	3,154,284	3,154,284	0	0	0	1.00	1.00	1.00
基金積立額	104,279	104,285	159,320	6	55,035	55,041	1.00	1.53	1.53
定額運用基金への繰出支出	932	932	932	0	0	0	1.00	1.00	1.00
他会計への公債費充当財源繰出支出	1,076,463	0	0	△ 1,076,463	0	△ 1,076,463	-	-	-
地方債償還額	2,712,580	4,081,058	4,230,396	1,368,478	149,338	1,517,816	1.50	1.04	1.56
長期借入金返済額	0	0	1,755	0	1,755	1,755	-	-	-
短期借入金減少額	0	0	0	0	0	0	-	-	-
収益事業純支出	0	0	0	0	0	0	-	-	-
その他支出	0	0	0	0	0	0	-	-	-
支出合計	7,049,158	7,341,179	7,547,307	292,021	206,128	498,149	1.04	1.03	1.07
国県補助金等	0	0	0	0	0	0	-	-	-
貸付金回収額	3,175,581	3,175,581	3,175,581	0	0	0	1.00	1.00	1.00
基金取崩額	52,541	52,541	52,543	0	2	2	1.00	1.00	1.00
地方債発行額	44,000	288,400	288,400	244,400	0	244,400	6.55	1.00	6.55
長期借入金借入額	0	0	0	0	0	0	-	-	-
収益事業純収入	0	0	0	0	0	0	-	-	-
公共資産等売却収入	158,795	158,795	158,795	0	0	0	1.00	1.00	1.00
他会計繰入金等	0	0	0	0	0	0	-	-	-
その他収入	146,626	146,926	150,168	300	3,242	3,542	1.00	1.02	1.02
収入合計	3,577,543	3,822,243	3,825,487	244,700	3,244	247,944	1.07	1.00	1.07
投資・財務的収支額	△ 3,471,615	△ 3,518,936	△ 3,721,820	△ 47,321	△ 202,884	△ 250,205	1.01	1.06	1.07
翌年度繰上充用金増減額	0	0	0	0	0	0	-	-	-
当年度資金増減額	853,818	1,137,979	1,207,315	284,161	69,336	353,497	1.33	1.06	1.41
期首資金残高	4,217,940	5,972,049	6,348,584	1,754,109	376,535	2,130,644	1.42	1.06	1.51
経費負担割合変更に伴う差額	0	0	△ 21,886	0	△ 21,886	△ 21,886	-	-	-
期末資金残高	5,071,758	7,110,028	7,534,013	2,038,270	423,985	2,462,255	1.40	1.06	1.49

## 2 連結資金収支計算書による燕市の財政状況

### (1) 普通会計資金収支計算書と連結資金収支計算書の比較

資金収支計算書を普通会計ベースと連結ベースで比較してみると、経常的収支の部の支出合計で連単倍率2.01倍、収入合計で同1.90倍となっており、公共資産整備収支の部と投資・財務的収支の部の連単倍率より高くなっています。これは主に、支出合計では、人件費、物件費や公営事業会計における社会保障給付が加算され、収入では公営事業会計における保険料、事業収入が加算されているためです。

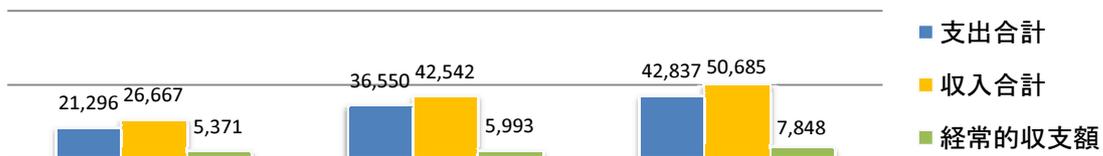
#### 【資金収支計算書の連単比較】

(単位:千円、倍)

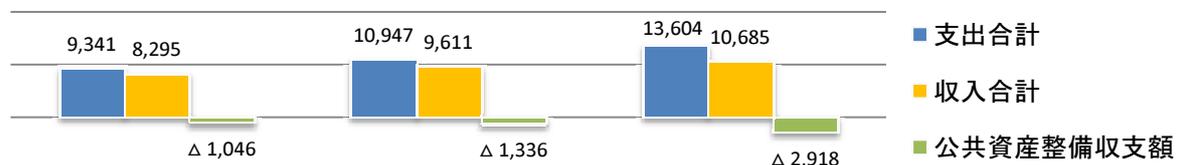
	普通会計	市全体	連結	連結-普通会計	連単倍率
<b>【経常的収支の部】</b>					
支出合計	21,296,180	36,549,842	42,837,471	21,541,291	2.01
収入合計	26,667,465	42,542,352	50,685,098	24,017,633	1.90
経常的収支額	5,371,285	5,992,510	7,847,627	2,476,342	1.46
<b>【公共資産整備収支の部】</b>					
支出合計	9,340,611	10,946,533	13,603,798	4,263,187	1.46
収入合計	8,294,759	9,610,938	10,685,306	2,390,547	1.29
公共資産整備収支額	△ 1,045,852	△ 1,335,595	△ 2,918,492	△ 1,872,640	2.79
<b>【投資・財務的収支の部】</b>					
支出合計	7,049,158	7,341,179	7,547,307	498,149	1.07
収入合計	3,577,543	3,822,243	3,825,487	247,944	1.07
投資・財務的収支額	△ 3,471,615	△ 3,518,936	△ 3,721,820	△ 250,205	1.07
期首資金残高	4,217,940	5,972,049	6,348,584	2,130,644	1.51
期末資金残高	5,071,758	7,110,028	7,534,013	2,462,255	1.49

#### 【経常的収支の部】

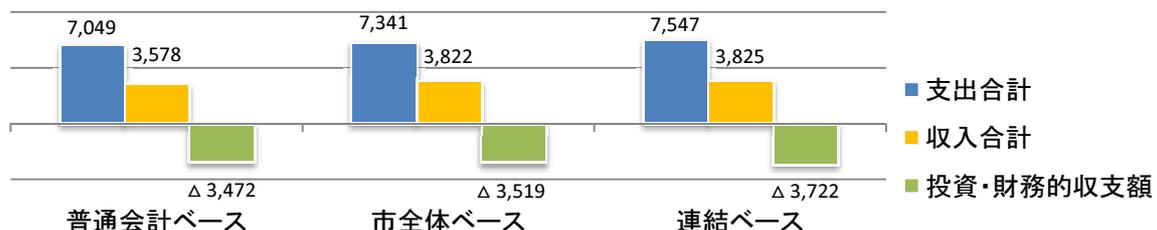
(単位:百万円)



#### 【公共資産整備収支の部】



#### 【投資・財務的収支の部】



## VI 連結財務書類4表の関係

### 1 燕市の連結財務書類4表の関係図

#### 【貸借対照表】

(平成25年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
1. 公共資産	194,124,897	1. 固定負債	72,744,305
(1)有形固定資産、無形固定資産	193,645,343	(1)地方公共団体	62,851,429
(2)売却可能資産	479,554	(2)関係団体	1,167,045
2. 投資等	6,892,110	(3)その他	8,725,831
(1)投資及び出資金	194,119	2. 流動負債	4,766,463
(2)貸付金	438,301	(1)翌年度償還予定額	4,196,999
(3)基金等	5,518,397	(2)その他	569,464
(4)その他	741,293	<b>負債合計</b>	<b>77,510,768</b>
3. 流動資産	7,884,949		
(1)資金	7,534,013		
(2)未収金	326,167		
(3)その他	24,769		
<b>資産合計</b>	<b>208,901,956</b>	<b>純資産合計</b>	<b>131,391,188</b>
		<b>負債・純資産合計</b>	<b>208,901,956</b>

#### 【資金収支計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

1. 経常的収支額	7,847,627
収入合計	50,685,098
支出合計	42,837,471
2. 公共資産整備収支額	△ 2,918,492
収入合計	10,685,306
支出合計	13,603,798
3. 投資・財務的収支額	△ 3,721,820
収入合計	3,825,487
支出合計	7,547,307
当年度歳計現金増減額	1,207,315
期首歳計現金残高	6,348,584
<b>期末歳計現金残高</b>	<b>7,534,013</b>

#### 【純資産変動計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

期首純資産残高	127,372,367
<b>純経常行政コスト</b>	<b>△ 31,359,153</b>
一般財源	20,510,645
地方税	10,333,958
地方交付税	8,407,128
その他	1,769,559
補助金等受入	14,526,603
臨時損益	159,235
その他	181,491
<b>期末純資産残高</b>	<b>131,391,188</b>

#### 【行政コスト計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

<b>経常行政コスト A</b>	<b>47,757,324</b>
1. 人にかかるコスト	5,697,905
(1)人件費	5,465,917
(2)退職手当引当金繰入等	△ 105,539
(3)賞与引当金繰入額	337,527
2. 物にかかるコスト	11,453,693
(1)物件費	5,559,205
(2)減価償却費	462,716
(3)維持補修費	5,431,772
3. 移転支的的なコスト	29,384,775
(1)社会保障給付	23,945,747
(2)補助金等	4,572,583
(3)他会計等への支出額	△ 25,537
(4)他団体への公共資産整備補助金	891,982
4. その他のコスト	1,220,951
(1)支払利息	968,535
(2)その他	252,416
<b>経常収益 B</b>	<b>16,398,171</b>
使用料・手数料	974,358
分担金・負担金・寄附金	9,805,302
保険料	3,701,564
事業収益	1,798,286
その他特定行政サービス収入	118,661
<b>純経常行政コスト A-B</b>	<b>31,359,153</b>

#### (1) 連結財務書類4表の関係

- ① 貸借対照表の「純資産合計」は、純資産変動計算書の「期末純資産残高」と一致します。
- ② 行政コスト計算書の「純経常行政コスト」は、純資産変動計算書の「純経常行政コスト」と対応します。
- ③ 貸借対照表の「資金」と資金収支計算書の「期末歳計現金残高」が一致します。

## 2 市民一人当たりの連結財務書類4表

### 【貸借対照表】

(平成25年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
1. 公共資産	2,343	1. 固定負債	878
(1)有形固定資産、無形固定資産	2,337	(1)地方公共団体	758
(2)売却可能資産	6	(2)関係団体	14
2. 投資等	83	(3)その他	105
(1)投資及び出資金	2	2. 流動負債	58
(2)貸付金	5	(1)翌年度償還予定額	51
(3)基金等	67	(2)その他	7
(4)その他	9	<b>負債合計</b>	<b>935</b>
3. 流動資産	95		
(1)資金	91		
(2)未収金	4		
(3)その他	0	<b>純資産合計</b>	<b>1,586</b>
<b>資産合計</b>	<b>2,521</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>2,521</b>

### 【資金収支計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

1. 経常的収支額	95
収入合計	612
支出合計	517
2. 公共資産整備収支額	△ 35
収入合計	129
支出合計	164
3. 投資・財務的収支額	△ 45
収入合計	46
支出合計	91
当年度歳計現金増減額	15
期首歳計現金残高	77
<b>期末歳計現金残高</b>	<b>91</b>

### 【純資産変動計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

期首純資産残高	1,537
<b>純経常行政コスト</b>	<b>△ 378</b>
一般財源	248
地方税	125
地方交付税	101
その他	21
補助金等受入	175
臨時損益	2
その他	2
<b>期末純資産残高</b>	<b>1,586</b>

### 【行政コスト計算書】

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

(単位:千円)

<b>経常行政コスト A</b>	<b>576</b>
1. 人にかかるコスト	69
(1)人件費	66
(2)退職手当引当金繰入等	△ 1
(3)賞与引当金繰入額	4
2. 物にかかるコスト	138
(1)物件費	67
(2)減価償却費	6
(3)維持補修費	66
3. 移転支的コスト	355
(1)社会保障給付	289
(2)補助金等	55
(3)他会計等への支出額	0
(4)他団体への公共資産整備補助金	11
4. その他のコスト	15
(1)支払利息	12
(2)その他	3
<b>経常収益 B</b>	<b>198</b>
使用料・手数料	12
分担金・負担金・寄附金	118
保険料	45
事業収益	22
その他特定行政サービス収入	1
<b>純経常行政コスト A-B</b>	<b>378</b>

#### (1) 市民一人当たりの連結財務書類の数値

- ① 連結ベースの市民一人当たりの資産は252万円、負債は94万円となりました。普通会計ベースの市民一人当たりの資産は171万円、負債は59万円ですから、資産で81万円、負債で35万円増加しました。
- ② 連結ベースの市民一人当たりのコストを見てみると、人にかかるコストは7万円、物にかかるコストは14万円、移転支的コストは36万円、その他のコストは2万円です。経常行政コストの合計は58万円となりました。普通会計ベースの市民一人当たりの経常行政コストの合計は32万円ですから、26万円の増加となりました。

※平成25年3月31日現在住民基本台帳人口: 82,867 人

※表示単位未満四捨五入していますので、各項目の合計が一致しない場合があります。

---

**平成24年度決算 燕市の財務書類4表**

---

発行年月 平成25年12月  
発行 燕市  
編集 企画財政部企画財政課  
住所 〒959-0295  
新潟県燕市吉田西太田1934番地  
TEL 0256-77-8356（直通）  
FAX 0256-77-8305  
e-mail kikaku@city.tsubame.niigata.jp

---